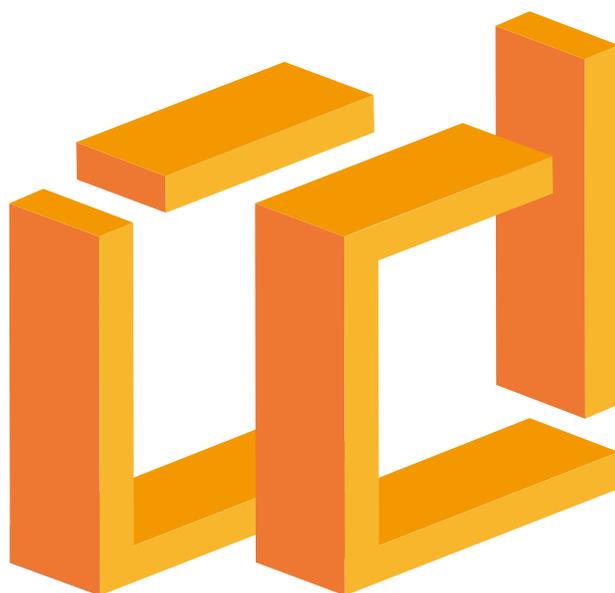


DIY・日曜大工らくらく設計ソフト caDIY3D-X

リファレンスマニュアル



caDIY3D[×]
キャディースリーディークロス

caDIY3D（キャディースリーディー）は株式会社日本マイクロシステムの登録商標です。

caDIY3D サポート窓口に関するご案内

■ メールでのお問い合わせ

オフィシャルサイト「お問い合わせ」<https://cadiy3d.com/wp/contact/> の
お問い合わせフォームより必要事項を記入の上、送信してください。
受付時間：24 時間（ご質問に対する回答は 9:00～17:00 とさせていただきます）

■ Fax でのお問い合わせ 0859-46-0884

受付時間：24 時間（ご質問に対する回答は 9:00～17:00 とさせていただきます）

目次

目次.....	2	5-3-7.塗料情報削除時の「確認」ダイアログ.....	35
1. 画面構成.....	3	5-4. 「木取り図」モード.....	36
2. メインメニュー.....	4	5-4-1. 「木取り図」サイドパネル.....	37
2-1. 「ファイル」メニュー.....	4	5-4-2. 「木取り図」.....	38
2-1-1. 「オンラインモデル」ウィンドウ.....	5	5-4-3. 「木取り図印刷プレビュー」ウィンドウ.....	39
2-1-2. 「エクスポート」ウィンドウ.....	6	5-4-4. 「Kicori 便」ポタソクリック時の「確認」ダイアログ.....	40
2-1-3. 「印刷」ウィンドウ.....	9	5-5. 「ウォークスルー」モード.....	40
2-2. 「編集」メニュー.....	11	5-6. 「材料追加」モード.....	41
2-3. 「操作」メニュー.....	11	5-6-1. 「オンラインパーツ」ウィンドウ.....	42
2-4. 「オブジェクト」メニュー.....	13	5-6-2. 「規格インポート」ウィンドウ.....	43
2-4-1. 「最近使った材料」コマソド.....	14	5-6-3. 「規格をエクスポート」ダイアログ.....	44
2-4-2. 図面パーツ追加モード.....	14	5-6-4. 「材料規格をインポート」ダイアログ.....	45
2-5. 「表示」メニュー.....	15	5-6-5. 材料追加モード.....	45
2-6. 「ツール」メニュー.....	17	5-6-6. 材料編集モード（共通部分）.....	46
2-6-1. 「設定」ダイアログ.....	17	5-6-7. 材料編集モード（木材/板材/合板/丸棒/丸板）.....	48
2-6-2. 「クイックスタート」ウィンドウ.....	22	5-6-8. 材料編集モード（DIY 資材）.....	52
2-6-3. 「電卓」ダイアログ.....	22	5-6-9. 材料編集モード（パーツモデル）.....	55
2-6-4. 「簡易たわみ計算」ダイアログ.....	23	5-6-10. 「図形追加」ダイアログ.....	58
2-6-5. 「製品情報」ウィンドウ.....	24	5-7. 「材料置換」モード.....	59
3. ユーザー情報.....	25	6. ワークスペース.....	61
3-1. 「ユーザー情報」ダイアログ.....	25	6-1. マウス操作.....	63
4. Mode メニュー.....	26	6-1-1. 図面モードでのマウス操作.....	63
5. 動作モード.....	27	6-1-2. ウォークスルーモードでのマウス操作.....	64
5-1. 「ホーム」モード.....	27	7. サイドパネル.....	65
5-1-1. 「材料の整列」ダイアログ.....	28	7-1. 「寸法線/分度器/コメントの設定」パネル.....	69
5-1-2. 形状加工時の「確認」ダイアログ.....	29	7-2. 「ビスの設定」パネル.....	70
5-2. 「表示」モード.....	30	7-3. 「ピクチャの設定」パネル.....	71
5-3. 「ペイント」モード.....	31	8. ステータスバー.....	73
5-3-1. 「ペイント」サイドパネル.....	31	8-1. 実寸モード.....	74
5-3-2. 「新しい塗料のセット」ダイアログ.....	32	9. ツイート機能.....	75
5-3-3. 「塗料セットの変更」ダイアログ.....	33	9-1. Twitter アカウントの連携.....	76
5-3-4. 塗料セット削除時の「確認」ダイアログ.....	33		
5-3-5. 「塗料の設定」ダイアログ.....	33		
5-3-6. 「塗料の詳細情報」ダイアログ.....	35		

1. 画面構成

本アプリケーションのメインウィンドウを構成する各部の名称は下図のようになっています。

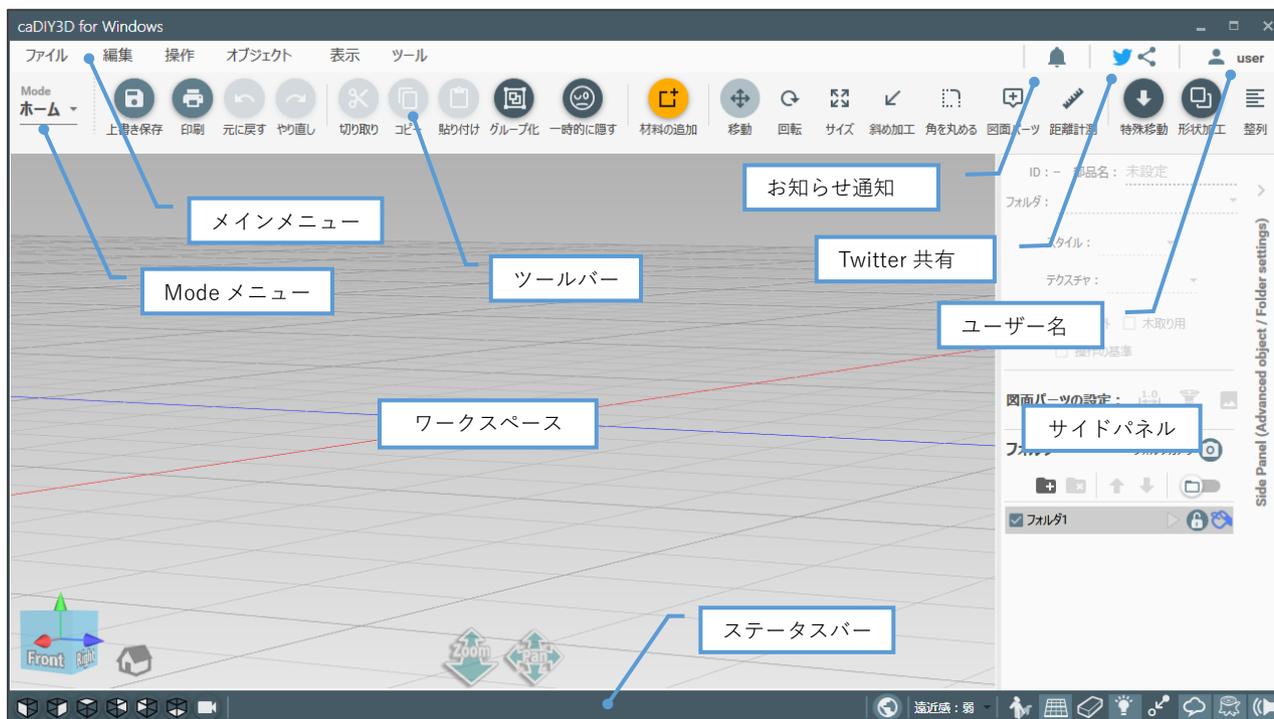


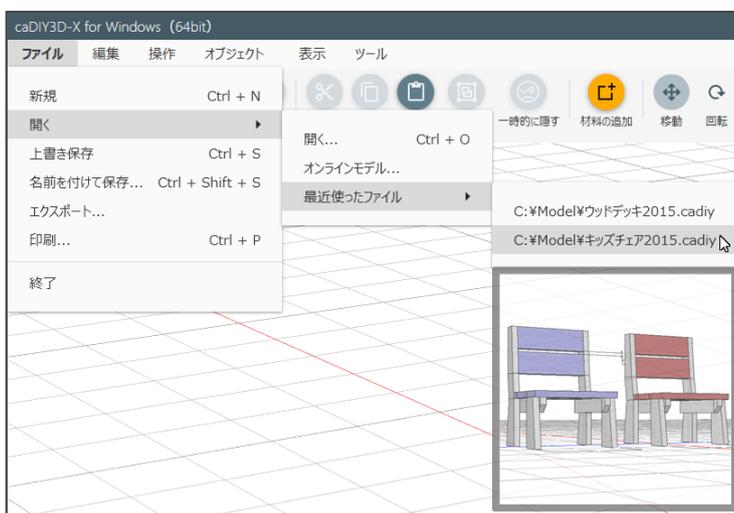
表 1 画面構成

項目	内容	備考	
メインメニュー	メニューからコマンドを選んで、さまざまな処理を実行します。	2章 参照	
お知らせ通知	クリックすると「新着情報」ウィンドウが表示されます。		
Twitter共有	「現在の図面でツイートする」ダイアログが表示されます。	9章 参照	
ユーザー情報	ユーザー名を表示します。クリックすると「ユーザー情報」ダイアログが開き、ユーザー情報を登録できます。	3章 参照	
Modeメニュー	各動作モードを選択するリストが表示されます。	4章 参照	
ツールバー	選択中のモードに対応したコマンドが表示されます。	5章 参照	
ワークスペース	図面を構成する立体形状を表示する 3D 空間です。	6章 参照	
サイドパネル	オブジェクトの情報や、フォルダについて設定するエリアです。	7章 参照	
ステータスバー	操作ヒントの表示や、カメラ切り替え用のアイコン、設定アイコンなどが表示されます。	8章 参照	

2. メインメニュー

メインメニューからコマンドを選んで、さまざまな処理を実行します。

2-1. 「ファイル」メニュー



「ファイル」メニューではファイルに関する各種操作を行います。

表 2-1.1 「ファイル」メニュー

[備考欄の () 内はコマンドに対応したショートカット]

項目	内容	備考
「新規」コマンド	新しいウィンドウを開いて、新しい図面を作成します。	(Ctrl + N)
「開く」コマンド	新しいウィンドウを開いて、既存の図面を表示します。サブメニューを表示します。	表 2-1.2
「上書き保存」コマンド	現在の図面を上書き保存します。	(Ctrl + S) ※制限対象
「名前を付けて保存」コマンド	現在の図面に名前を付けて保存します。	(Ctrl + Shift + S) ※制限対象
「エクスポート...」コマンド	現在の図面のファイル形式を変換して保存します。「エクスポート」ウィンドウが表示されます。	※制限対象 2-1-2 章 参照
「印刷」コマンド	図面を印刷します。「印刷」ウィンドウが表示されます。	(Ctrl + P) ※制限対象 2-1-3 章 参照
「終了」コマンド	本アプリケーションを終了します。	

※制限対象：試用期間中、およびライセンス登録済みの場合に利用可能です。

表 2-1.2 「開く」サブメニュー

[備考欄の () 内はコマンドに対応したショートカット]

項目	内容	備考
「開く」コマンド	任意のフォルダ内にある図面を開くことができます。ファイルを「開く」ダイアログを表示します。	(Ctrl + O)
「オンラインモデル...」コマンド	サンプルモデル、ユーザー投稿図面を開くことができます。「オンラインモデル」ウィンドウが表示されます。	ネットワーク 接続が必要 2-1-1 章 参照
「最近使ったファイル」コマンド	最近使った図面の履歴リストを表示します。履歴を一覧表示したサブメニューを表示します。履歴にマウスを重ねるとサムネイルを表示します。	

2-1-1. 「オンラインモデル」 ウィンドウ



「オンラインモデル」ウィンドウではオフィシャルサイトで提供されている図面データを選んで、開くことができます。インターネット接続が必要となります。

2-1-1.1 オンラインモデルウィンドウ

項目	内容	備考
「サンプルモデル/ユーザー投稿」タブ	オンラインで公開されているモデルの種別（サンプルモデル/ユーザー投稿）を切り替えるタブです。	
「絞り込み」リスト	選択したジャンルでモデルを絞り込み、表示します。	
「ページ送り」ボタン	「<<」… 先頭のページを表示します。 「<」… 前のページを表示します。 「>」… 次のページを表示します。 「>>」… 末尾のページを表示します。	
「表示数」リスト	1 ページに表示するモデル数を選択します。	
「モデル」一覧エリア	モデルの一覧をタイル状に表示します。クリックするとモデルが選択されます。	
「オフィシャルサイトへ」ボタン	選択されたモデルの詳細な情報が記載されたウェブページを、既定のブラウザを使って表示します。	
「キャンセル」ボタン	「オンラインモデル」ダウンロードを中止して、メインウィンドウに戻ります。	
「開く」ボタン	選択したモデルをダウンロードして開きます。	

2-1-2. 「エクスポート」ウィンドウ



「エクスポート」ウィンドウでは編集
中の図面を、他のソフトで利用する
ファイル形式で保存することができま
す。

表 2-1-2.1 エクスポートウィンドウ

項目	内容	備考
「DXF」タブ	図面を DXF 形式で保存する際のオプションを表示します。	表 2-1-2.2 参照
「STL」タブ	図面を STL 形式で保存する際のオプションを表示します。	表 2-1-2.3 参照
「MR」タブ	図面を caDIY3D MR 形式で保存します。	表 2-1-2.4 参照
「イメージ保存」タブ	図面を画像として保存する際のオプションを表示します。	表 2-1-2.6 参照
「GIF アニメーション」タブ	図面を GIF アニメーションとして保存する際のオプションを表示します。	表 2-1-2.7 参照

「DXF」タブ

表 2-1-2.2 「DXF」タブ

項目	内容	備考
「出力形式の選択」リスト	図面の出力形式 (2D/3D) を選択します。2D 出力時にはどの平面を 2D にする かを選択します。	
「出力単位の選択」リスト	DXF ファイル内の数値に対する単位 (mm 単位/インチ単位) を選択します。	
「キャンセル」ボタン	エクスポートを中止して、メインウィンドウに戻ります。	
「保存」ボタン	図面を DXF 形式のファイルとして保存します。	

「STL」タブ

表 2-1-2.3 「STL」タブ

項目	内容	備考
「出力倍率の選択」リスト	STL データの出力倍率 (1/1、1/2、1/5、1/10、1/20、1/50、1/100) を選 択します。	
「キャンセル」ボタン	エクスポートを中止して、メインウィンドウに戻ります。	
「保存」ボタン	図面を STL 形式のファイルとして保存します。	

「MR」 タブ



「MR」タブでは caDIY3D シリーズ「caDIY3D MR」で利用するデータを保存します。caDIY3D MR では VR 空間にモデルを表示します。（この機能は Windows 8.1 以前では利用できません。）

表 2-1-2.4 「MR」 タブ

項目	内容	備考
「ファイルアイコン」 エリア	caDIY3D MR アプリでデータを選択する際に表示するアイコン画像です。現在の図面の表示状態がアイコン化されます。	
「キャンセル」ボタン	エクスポートを中止して、メインウィンドウに戻ります。	
「保存」ボタン	「MR 形式ファイルのエクスポート」ダイアログが表示されます。	表 2-1-2.5 参照

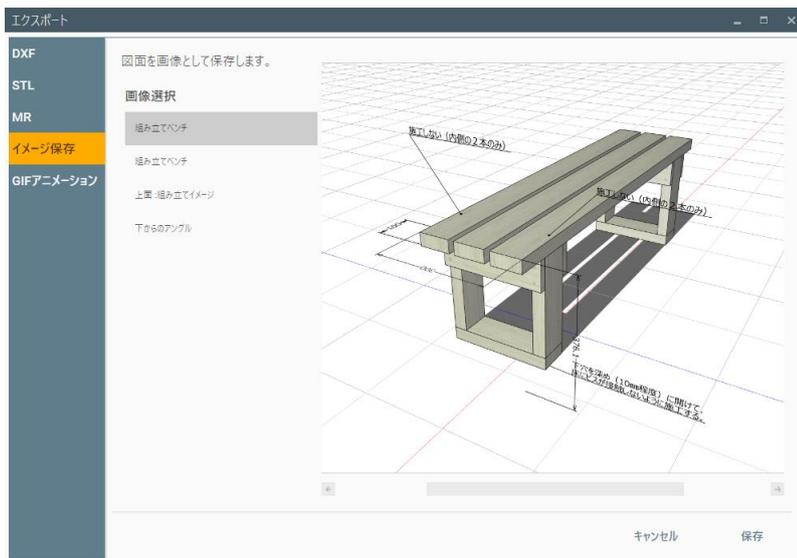
「MR 形式ファイルのエクスポート」ダイアログ



表 2-1-2.5 MR 形式ファイルのエクスポート」ダイアログ

項目	内容	備考
「ファイル名」入力	MR 形式ファイルのファイル名を入力します。	
「キャンセル」ボタン	保存をキャンセルして、「エクスポート」ウィンドウに戻ります。	
「保存」ボタン	図面を caDIY3D MR アプリ形式のファイルとして保存します。	
「保存して開く」ボタン	図面を caDIY3D MR アプリ形式のファイルとして保存後、caDIY3D MR を開きます。Windows Mixed Reality 対応ヘッドセット接続時に有効です。	

「イメージ保存」タブ



イメージ保存タブでは、図面を各種画像として保存することができます。

表 2-1-2.6 「イメージ保存」タブ

項目	内容	備考
「画像一覧」リスト	現在の表示状態、およびカメラ情報が登録されているフォルダ名をリスト表示します。項目をクリックすると対応したカメラ位置の画像にプレビューが切り替わります。	
「プレビュー」エリア	画像イメージを表示します。	
「キャンセル」ボタン	エクスポートを中止して、メインウィンドウに戻ります。	
「保存」ボタン	プレビューエリアに表示されている画像をファイル名を付けて保存します。「画像に名前を付けて保存」ダイアログが表示されます。保存形式は bmp / jpeg / tiff / png の中から選択できます。	

「GIF アニメーション」タブ



GIF アニメーションタブでは、図面を現在の注視点を中心に水平方向に 360° 回転するアニメーション GIF として保存することができます。

表 2-1-2.7 「GIF アニメーション」タブ

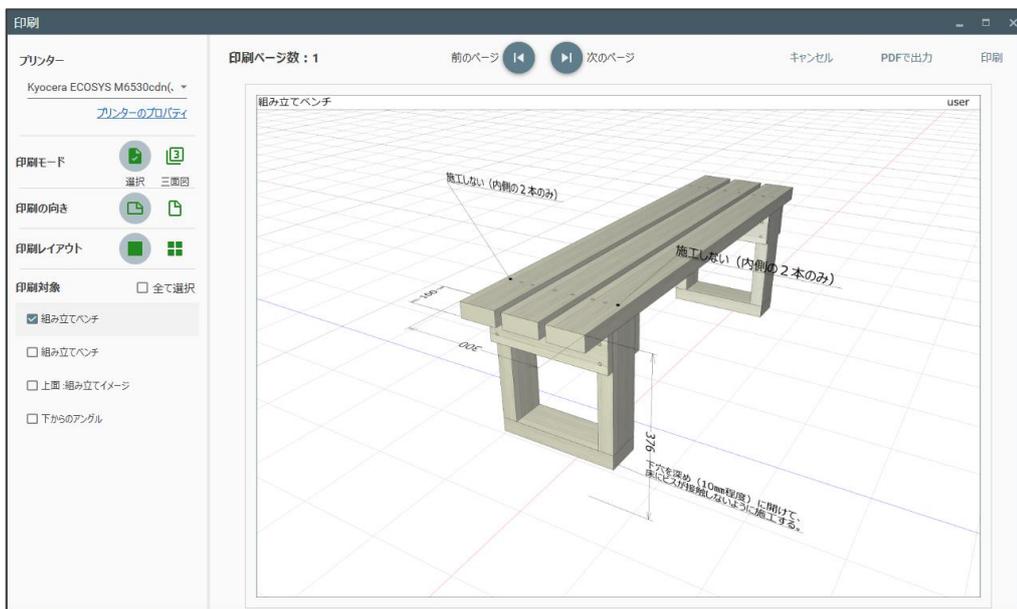
項目	内容	備考
「サイズ選択」リスト	GIF ファイルの画像サイズ (128×128、256×256、512×512) を選択します。	

「再生スピード」リスト	回転する速度を選択します。(低速/中速/高速)	
「プレビュー」エリア	アニメーション GIF イメージを表示します。	
「  現在の図面をツイート」ボタン	「現在の図面でツイートする」ダイアログが表示されます。	9 章 参照
「キャンセル」ボタン	エクスポートを中止して、メインウィンドウに戻ります。	
「保存」ボタン	プレビューエリアに表示されているプレビュー内容にファイル名を付けて保存します。	

2-1-3. 「印刷」 ウィンドウ

「印刷」ウィンドウでは図面を印刷します。カメラ情報を選択して印刷する選択モードと三面図を印刷する三面図モードが選択できます。

選択モード

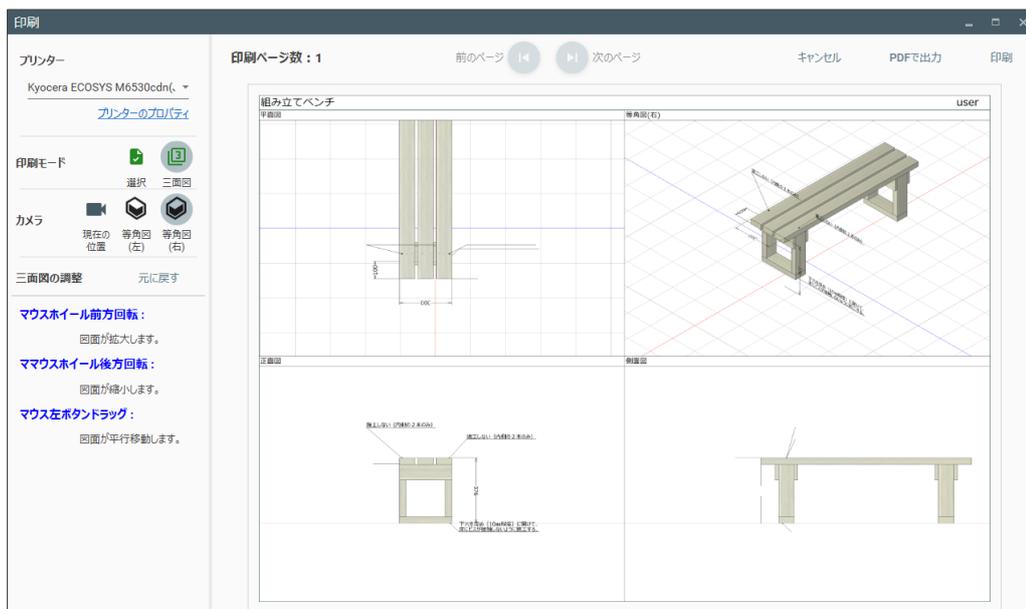


印刷モードで「選択」を選択します。「印刷の向き」、「印刷レイアウト」、「印刷対象」を指定できます。

表 2-1-3.1 「印刷」ウィンドウ（選択モード）

項目	内容	備考
「プレビュー」エリア	印刷プレビューを表示するエリアです。	
「プリンター」リスト	利用可能なプリンターの一覧が表示されます。印刷を行うプリンターを選択します。	
「印刷モード」ボタン	 (選択) /  (三面図) を選択します。	 (選択) を選択する
「印刷の向き」ボタン	 (横方向) /  (縦方向) を選択します。	
「印刷レイアウト」ボタン	 (単ページ) /  (4 分割) を選択します。	
「印刷対象」リスト	現在の表示状態、およびカメラ情報が登録されているフォルダ名をリスト表示します。このリストのチェックがついている項目が印刷対象となります。	
「全て選択」チェック	「印刷対象」リストの全項目を対象にチェック状態を ON/OFF します。	
「印刷ページ数」エリア	印刷ページ数を表示します。	
「前/次のページ」ボタン	印刷対象のページを前後に切り替えます。	
「キャンセル」ボタン	印刷を中止してメインウィンドウに戻ります。	
「PDF で出力」ボタン	印刷イメージを PDF ファイルとして出力します。	
「印刷」ボタン	指定されたプリンターで図面を印刷します。	

三面図モード

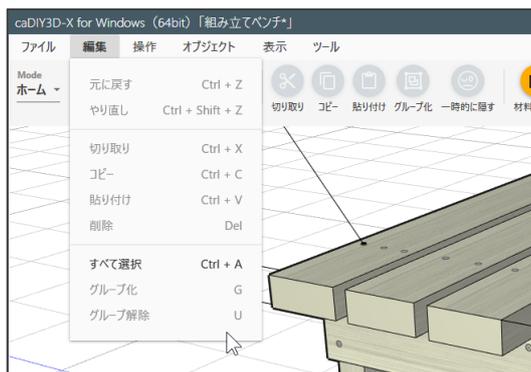


印刷モードで「三面図」を選択します。プレビューが4分割され、平面図（左上）、カメラ図（右上）、正面図（左下）、側面図（右下）を表示します。

表 2-1-3.2 「印刷」 ウィンドウ（三面図モード）

項目	内容	備考
「プレビュー」エリア	印刷プレビューを表示するエリアです。	
「プリンター」リスト	利用可能なプリンターの一覧が表示されます。印刷を行うプリンターを選択します。	
「印刷モード」ボタン	（選択） / （三面図）を選択します。	（三面図）を選択する
「カメラ」ボタン	（現在の位置） / （等角図（左）） / （等角図（右））を選択して、カメラ図に表示します。	
「元に戻す」ボタン	印刷プレビューを表示した時点の表示倍率、表示位置に戻します。	
「印刷ページ数」エリア	印刷ページ数を表示します。	
「前/次のページ」ボタン	印刷対象のページを前後に切り替えます。	非活性
「キャンセル」ボタン	印刷を中止してメインウィンドウに戻ります。	
「PDFで出力」ボタン	印刷イメージをPDFファイルとして出力します。	
「印刷」ボタン	指定されたプリンターで図面を印刷します。	

2-2. 「編集」メニュー



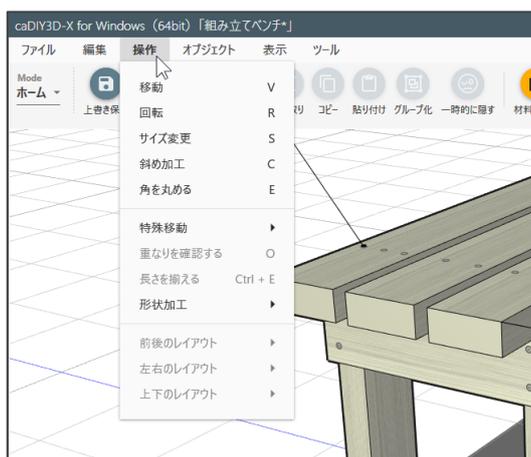
「編集」メニューはオブジェクトを編集するコマンドを集めたメニューです。

表 2-2.1 「編集」メニュー

[備考欄の () 内はコマンドに対応したショートカット]

項目	内容	備考
「元に戻す」コマンド	図面に対して行った操作を一つ元に戻します。	(Ctrl + Z)
「やり直し」コマンド	「元に戻す」で戻した操作をやり直します。	(Ctrl + Shift + Z)
「切り取り」コマンド	選択中のオブジェクトをクリップボードに保存し、図面から削除します。	(Ctrl + X)
「コピー」コマンド	選択中のオブジェクトをクリップボードに保存します。	(Ctrl + C)
「貼り付け」コマンド	クリップボードに保存されているオブジェクト、または画像の情報からオブジェクトを図面に追加します。	(Ctrl + V)
「削除」コマンド	選択したオブジェクトを図面から削除します。	(Delete)
「すべて選択」コマンド	表示中のすべてのオブジェクトを選択します。	(Ctrl + A)
「グループ化」コマンド	選択した複数のオブジェクトを1つのグループにします。	(G)
「グループ解除」コマンド	選択したグループのグループ化を解除します。	(U)

2-3. 「操作」メニュー



「操作」メニューは図面に追加したオブジェクトへの各種操作を集めたメニューです。

表 2-3.1 「操作」メニュー

[備考欄の () 内はコマンドに対応したショートカット]

項目	内容	備考
「移動」コマンド	オブジェクトの操作モードを「移動」モードにします。	(V)
「回転」コマンド	オブジェクトの操作モードを「回転」モードにします。	(R)
「サイズ変更」コマンド	オブジェクトの操作モードを「サイズ変更」モードにします。	(S)
「斜め加工」コマンド	オブジェクトの操作モードを「斜め加工」モードにします。	(C)
「角を丸める」コマンド	オブジェクトの操作モードを「角を丸める」モードにします。	(E)
「特殊移動」コマンド	選択オブジェクトを床方向に移動します。	表 2-3.2 参照

「重なりを確認する」 コマンド	選択中のオブジェクトの中からサイズ、向き、位置が同じオブジェクト（つまり、同じオブジェクトが重なっている）をサーチし、片方を選択します。	(O)
「長さを揃える」コマンド	「長さを揃える」ダイアログを表示します。複数のオブジェクトが選択されている場合に有効です。	(Ctrl+E) 2-3-1.章 参照
「形状加工」コマンド	選択した複数オブジェクトを組み合わせて新しいオブジェクトを作成します。	表 2-3.3 参照
「前後のレイアウト」 コマンド	選択した複数オブジェクトをワークスペースの前後方向にレイアウトします。	表 2-3.4 参照
「左右のレイアウト」 コマンド	選択した複数オブジェクトをワークスペースの左右方向にレイアウトします。	表 2-3.5 参照
「上下のレイアウト」 コマンド	選択した複数オブジェクトをワークスペースの上下方向にレイアウトします。	表 2-3.6 参照

表 2-3.2 「特殊移動」サブメニュー

[備考欄の () 内はコマンドに対応したショートカット]

項目	内容	備考
「床の上に置く」コマンド	選択オブジェクトの最下端が床に接地するように移動します。選択オブジェクト間の位置関係は維持されます。	(L)
「床に落とす」コマンド	選択オブジェクトを床方向に落とします。選択オブジェクトと床の間に他のオブジェクトが存在する場合は、そのオブジェクトと接触する位置までの移動となります。存在しない場合は床まで移動します。	(Ctrl+L)
「すべて床に置く」コマンド	選択オブジェクトの各オブジェクトの下端が床に接地するように移動します。	(Alt+L)

表 2-3.3 「形状加工」サブメニュー

項目	内容	備考
「結合」コマンド	選択オブジェクトを結合して新たなオブジェクトを生成します。	
「切り欠き」コマンド	最初に選択したオブジェクトに対し、後から選択したオブジェクトと重なっている部分を切り欠いた新たなオブジェクトを生成します。	
「切り抜き」コマンド	最初に選択したオブジェクトに対し、後から選択したオブジェクトと重なっている部分から新たなオブジェクトを生成します。	

表 2-3.4 「前後のレイアウト」サブメニュー

項目	内容	備考
「前に揃える」コマンド	複数の選択オブジェクトの前端を揃えます。	
「後ろに揃える」コマンド	複数の選択オブジェクトの後端を揃えます。	
「前後中央揃え」コマンド	複数の選択オブジェクトに対し、前後の位置を基準となるオブジェクトに揃えます。	
「前後整列」コマンド	複数の選択オブジェクトに対し、オブジェクト重心位置を前後方向に等間隔で整列します。	※有効条件あり

表 2-3.5 「左右のレイアウト」サブメニュー

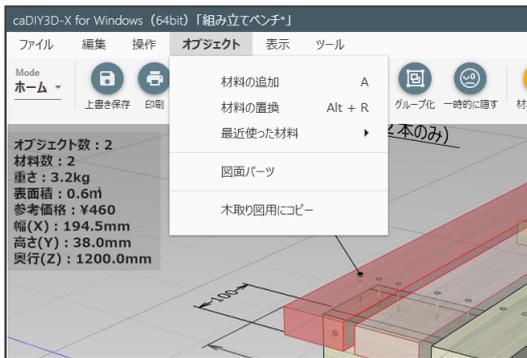
項目	内容	備考
「左揃える」コマンド	複数の選択オブジェクトの左端を揃えます。	
「右に揃える」コマンド	複数の選択オブジェクトの右端を揃えます。	
「左右中央揃え」コマンド	複数の選択オブジェクトに対し、左右の位置を基準となるオブジェクトに揃えます。	
「左右整列」コマンド	複数の選択オブジェクトに対し、各オブジェクトの重心位置を左右方向に等間隔で整列します。	※有効条件あり

表 2-3.6 「上下のレイアウト」サブメニュー

項目	内容	備考
「上に揃える」コマンド	複数の選択オブジェクトの上端を揃えます。	
「下に揃える」コマンド	複数の選択オブジェクトの下端を揃えます。	
「上下中央揃え」コマンド	複数の選択オブジェクトに対し、上下の位置を基準となるオブジェクトに揃えます。	
「上下整列」コマンド	複数の選択オブジェクトに対し、各オブジェクトの重心位置を上下方向に等間隔で整列します。	※有効条件あり

※有効条件：3つ以上のオブジェクトが選択されている場合に有効。

2-4. 「オブジェクト」メニュー



「オブジェクト」メニューでは、図面に新しくオブジェクトを追加することができます。

表 2-4.1 「オブジェクト」メニュー

[備考欄の () 内はコマンドに対応したショートカット]

項目	内容	備考
「材料の追加」コマンド	材料追加モードに移行します。	(A)
「材料の置換」コマンド	選択オブジェクトの材料種別を変更します。材料置換モードに移行。	(Alt + R)
「最近使った材料」コマンド	最近図面に追加した材料をサブメニューに表示します。	
「図面パーツ」コマンド	図面パーツ追加モードに移行します。	2-4-2 章 参照 ※制限対象
「木取り図用にコピー」コマンド	ワークスペースで木取り図を作成する場合の支援機能です。パーツモデル以外の選択中の材料オブジェクトをコピーして床に並べます。コピーした材料オブジェクトは集計外となります。	

※制限対象：試用期間中、およびライセンス登録済みの場合に利用可能です。

2-4-1. 「最近使った材料」 コマンド



「最近使った材料」を選択すると、サブメニューに最近図面に追加した材料の一覧が表示されます。サブメニューから材料の規格を選択すると、図面に選んだ材料が追加されます。また、サブメニュー上でマウスの右クリックをすると、さらに詳細なメニューが表示されま

「最近使った材料」サブメニューの右クリックメニュー

表 2-4-1.1 「最近使った材料」サブメニューの右クリックメニュー

項目	内容	備考
「履歴にピン留めする」コマンド	選択した材料規格を履歴の一覧にピン留めします。ピン留めされた材料規格は古くなっても残ります。	未ピン留め項目の場合
「履歴からピン留めを外す」コマンド	選択した材料規格のピン留めを外します。ピン留めされていない材料規格は、15件以前の履歴となるとリストから削除されます。	ピン留め項目の場合
「履歴から削除」コマンド	選択した材料規格を履歴の一覧から削除します。	

2-4-2. 図面パーツ追加モード



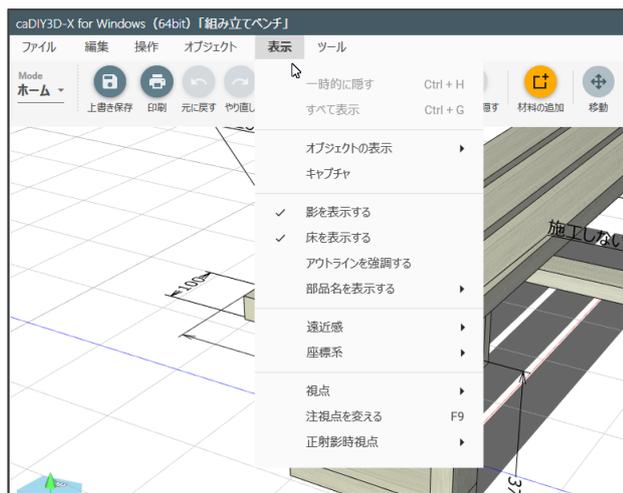
図面パーツ追加モードでは「図面パーツの追加」ダイアログが開いて選択した図面パーツを連続して追加できます。また、サイドパネルには「図面パーツの設定」パネルが表示され、寸法線の種類等の図面パーツ情報の設定ができます。

表 2-4.2.1 「図面パーツの追加」ダイアログ

[備考欄の () 内はコマンドに対応したショートカット]

項目	内容	備考
「寸法線」ボタン	寸法線オブジェクトの追加モードに移行します。	(D)
「分度器」ボタン	分度器オブジェクトの追加モードに移行します。	(P)
「コメント」ボタン	コメントオブジェクトの追加モードに移行します。	(T)
「ビス」ボタン	ビスオブジェクトの追加モードに移行します。	(W)
「ピクチャ」ボタン	ピクチャオブジェクトの追加モードに移行します。	(I)
「床に追加する」ボタン	図面パーツを注視点の床に追加します。	
「閉じる」ボタン	図面パーツ追加モードを終了して、メインウィンドウに戻ります。最後に追加した図面パーツに移動用マニピュレーターを表示します。(追加後に床をクリックした場合は選択解除されるため表示しません。)	

2-5. 「表示」メニュー



「表示」メニューでは、図面の表示方法を変更することができます。

表 2-5.1 「表示」メニュー

[備考欄の () 内はコマンドに対応したショートカット]

項目	内容	備考
「一時的に隠す」コマンド	選択中のオブジェクトを一時的に非表示にします。	(Ctrl + H)
「すべて表示」コマンド	一時的に隠したオブジェクトを全て表示します。	(Ctrl + G)
「オブジェクトの表示」コマンド	オブジェクトの表示方法を選択します。表示方法をサブメニューに表示します。	表 2-5.2 参照
「キャプチャ」コマンド	「キャプチャ」モードに移行します。ワークスペースでマウスドラッグすると範囲が表示されます。ドラッグを終了すると範囲内の表示状態を画像としてクリップボードに保存します。	
「影を表示する」コマンド	床に対して影を表示するかどうかを設定します。設定 ON でチェックマークを表示します。	初期値：ON
「床を表示する」コマンド	床グリッドを表示するかどうかを設定します。設定 ON でチェックマークを表示します。	初期値：ON
「アウトラインを強調する」コマンド	材料オブジェクトのアウトライン（外郭）を太く強調表示するかどうかを設定します。設定 ON でチェックマークを表示します。	初期値：ON
「部品名を表示する」コマンド	図面上の材料オブジェクトに部品名/ID を表示するかを設定します。「部品名のみ」の設定にしても部品名が空白のときは表示されません。	表 2-5.3 参照
「遠近感」コマンド	オブジェクトの奥行き感に関する設定を行います。遠近感の強度をサブメニューに表示します。	表 2-5.4 参照
「座標系」コマンド	オブジェクト操作を行う基準の座標系を指定することができます。	表 2-5.5 参照
「視点」コマンド	指定方向からの視点となるようにカメラを設定します。方向をサブメニューに表示します。	表 2-5.6 参照
「注視点を変える」コマンド	選択オブジェクトの重心に注視点（カメラが見ている場所）に変更します。オブジェクトが選択されていない場合は、ワークスペースの中心に注視点を変更します。	
「正射影時視点」コマンド	カメラの視点が「上」または「下」の場合に図面を 90 度回転して表します。回転方向をサブメニューに表示します。	表 2-5.7 参照

表 2-5.2 「オブジェクトの表示」サブメニュー

項目	内容	備考
「エッジのみ」コマンド	オブジェクトのエッジのみを表示します。	
「面のみ」コマンド	オブジェクトの面のみを表示します。	
「エッジ（前面）と面」コマンド	オブジェクトの面とエッジを表示します。背面に隠れるエッジは見えません。	初期値

「エッジ（全て）と面」 コマンド	オブジェクトの面とエッジを表示します。背面にあるエッジも透過して表示されます。	
---------------------	---	--

オブジェクトの表示方法は以下のいずれか 1 つを選択できます。選択された表示方法にチェックマークを表示します。

表 2-5.3 「部品名を表示する」サブメニュー

項目	内容	備考
「部品名のみ」コマンド	材料オブジェクトに部品名を表示します。	
「ID のみ」コマンド	材料オブジェクトに ID を表示します。	
「部品名と ID」コマンド	材料オブジェクトに部品名と ID を表示します。	
「表示しない」コマンド	材料オブジェクトに部品名と ID を表示しません。	初期値

表 2-5.4 「遠近感」サブメニュー

項目	内容	備考
「実寸モード」コマンド	正射影表示（遠近感の無い表示）になります。ワークスペースには実寸で印刷するための枠が表示されます。このモードでは実寸で図面を印刷できません。	
「弱」コマンド	奥行き感の設定を弱に設定します。3D 空間を認識しやすくなり、操作がしやすいモードとなります。	初期値
「中」コマンド	奥行き感の設定を中に設定します。	
「強」コマンド	奥行き感の設定を強に設定します。現実の見た目に近いイメージを確認することができますが、操作はしづらくなります。	

表 2-5.5 「座標系」サブメニュー

項目	内容	備考
「ワールド」コマンド	マニピュレーターをワールド座標系（絶対座標系）に基づいて表示します。	
「ローカル」コマンド	マニピュレーターをローカル座標系（相対座標系）に基づいて表示します。	

表 2-5.6 「視点」サブメニュー

[備考欄の () 内はコマンドに対応したショートカット]

項目	内容	備考
「上」コマンド	3D 空間を「上」から見た位置にカメラを設定します。	(F2)
「左」コマンド	3D 空間を「左」から見た位置にカメラを設定します。	(F3)
「前」コマンド	3D 空間を「前」から見た位置にカメラを設定します。	(F4)
「下」コマンド	3D 空間を「下」から見た位置にカメラを設定します。	(F5)
「右」コマンド	3D 空間を「右」から見た位置にカメラを設定します。	(F6)
「後ろ」コマンド	3D 空間を「後ろ」から見た位置にカメラを設定します。	(F7)

「視点」サブメニューで視点を選ぶと正射影（遠近感の無い表示）になります。

表 2-5.7 「正射影時視点」サブメニュー

項目	内容	備考
「反時計回りに回転」 コマンド	3D 空間を反時計回りに 90 度回転します。	
「時計回りに回転」コマンド	3D 空間を時計回りに 90 度回転します。	

「視点」で「上」または「下」の視点を選んでいる場合に有効です。

2-6. 「ツール」メニュー



「ツール」メニューは、設定、クイックスタート、ヘルプなどの各種ツールや機能を提供します。

表 2-6.1 「ツール」メニュー

[備考欄の () 内はコマンドに対応したショートカット]

項目	内容	備考
「設定...」コマンド	「設定」ダイアログを表示します。	2-6-1 章 参照
「クイックスタート...」コマンド	「クイックスタート」ウィンドウを表示します。	(F10) 2-6-2 章 参照
「電卓...」コマンド	「電卓」ダイアログを表示します。	(F12) 2-6-3 章 参照
「リファレンス...」コマンド	リファレンスマニュアルを表示します。(PDF ファイル) 現在ご覧になっているファイルです。	(F1)
「解説マニュアル...」コマンド	解説マニュアルを表示します。(PDF ファイル)	(Alt + F1)
「オフィシャルサイト...」コマンド	製品オフィシャルサイトを表示します。規定のブラウザを起動します。	
「簡易たわみ計算...」コマンド	「簡易たわみ計算」ダイアログを表示します。	2-6-4 章 参照
「製品情報...」コマンド	「製品情報」ウィンドウを表示します。	2-6-5 章 参照

2-6-1. 「設定」ダイアログ



「設定」ダイアログでは各種設定を変更します。「設定」ダイアログで変更した内容は保存され次回起動時でも引き継がれます。

表 2-6-1.1 「設定」ダイアログ

項目	内容	備考
「全て初期値に戻す」ボタン	設定をソフトウェアインストール時の初期値に戻します。	
「キャンセル」ボタン	設定変更を破棄し、メインウィンドウに戻ります。	
「OK」ボタン	設定変更を保存し、メインウィンドウに戻ります。	

「背景」タブ



ワークスペースの背景色を設定します。

表 2-6-1.2 「背景」タブ

項目	内容
「グラデーション」	背景をグラデーションで表示します。
「明るい背景」	背景を白く表示します。
「暗い背景」	背景を黒に近い色で表示します。

「床グリッド」タブ



床グリッドの設定を行います。床グリッドはメインとなるグリッド線とそれを分割している分割線で構成されています。

表 2-6-1.3 「床グリッド」タブ

項目	内容
「グリッド線の色」	床グリッドのグリッド線の色の濃さを変更します。
「分割線の色」	床グリッドの分割線の色の濃さを変更します。
「グリッド線の間隔 プリセット」リスト	グリッド線の間隔をリストから選択できます。 (250mm、500mm、1000mm、2500mm、5000mm、 カスタム) カスタムを選択した場合、リストの下の入力エリアで 任意の値を設定できます。
「グリッド線の間隔」 入力エリア	グリッド線の間隔を任意の値に設定できます。
「グリッドの分割数」 リスト	グリッド間を分割線で何分割するか選択できます。 (1/2、1/5、1/10)
「初期値に戻す」ボタ ン	床グリッドの設定内容だけを初期値に戻します。

「図面パーツ」タブ



ピクチャオブジェクト以外の図面パーツに表示される文字や数字に関する設定を行います。

表 2-6-1.4 「図面パーツ」タブ

項目	内容
「文字の大きさ」	文字の大きさを設定します。(大、中、小)
「文字のスタイル」	チェックを入れると文字を太字、斜体で表示します。
「フォント」リスト	文字のフォントをリストから設定します。
「カメラ方向に表示」 チェックボックス	チェックを入れると、文字が常にカメラ方向に向いて 表示されます。

「スタンプメニュー」タブ



材料オブジェクトをマウスの左ボタン長押しした際に表示するスタンプメニューの内容を設定します。

表 2-6-1.5 「スタンプメニュー」タブ

項目	内容
「スタンプメニュー」リスト	スタンプメニューに表示するコマンドの一覧です。最大で 8 件のコマンドを登録できます。
「コマンド一覧」リスト	スタンプメニューに設定可能なコマンドの一覧です。
「←」ボタン (追加)	コマンド一覧からスタンプメニューに選択したコマンドを追加します。既に 8 件のコマンドが登録されている場合は、追加できません。
「→」ボタン (削除)	スタンプメニューから選択したコマンドを削除します。
「↑ / ↓」ボタン (移動)	スタンプメニューの並びを変更します。
「初期値に戻す」ボタン	スタンプメニューのコマンドを初期値に戻します。

「マニピュレーター」タブ



マニピュレーターの表示を ON/OFF します。初期状態はすべて ON です。

表 2-6-1.6 「マニピュレーター」タブ

項目	内容
移動用マニピュレーターの表示設定	
「2方向移動(四角形)」 チェックボックス	2方向移動用の四角形の表示設定をします。ワールド座標系を指定時に有効です。
「操作位置の変更(キューブ)」 チェックボックス	選択オブジェクトの操作位置を変更するキューブの表示設定をします。
「床に置く/床に落とす(アイコン)」 チェックボックス	選択オブジェクトを床に置く/床に落とすアイコンの表示設定をします。
回転用マニピュレーターの表示設定	
「単位を選択して回転(ハンドル)」 チェックボックス	選択オブジェクトの回転する角度を指定できるハンドルの表示設定をします。
「操作位置の変更(キューブ)」 チェックボックス	選択オブジェクトの操作位置を変更するキューブの表示設定をします。
「回転のリセット(アイコン)」 チェックボックス	長押しするとオブジェクトを初期角度にリセットするアイコンの表示設定をします。

「距離計測」タブ



距離計測の表示を設定します。

表 2-6-1.7 「距離計測」タブ

項目	内容
「文字の大きさ」	文字の大きさを設定します。(大、中、小)
「文字のスタイル」	チェックを入れると文字を太字、斜体で表示します。
「フォント」リスト	文字のフォントをリストから設定します。
「線の太さ」リスト	(0.5/1.0/1.5/2.0/3.0) から選択します。
「線や文字の色」	距離線や文字の色を設定します。
「原点からの距離線を表示する」	チェックを入れると、移動モードの場合に、選択したオブジェクトの中心から図面の中心までの距離線が表示されます。
「透明度」	距離線の透明度を設定できます。(0~100)

「部品名」タブ



部品名の表示を設定します。

表 2-6-1.8 「部品名」タブ

項目	内容
「文字の大きさ」	文字の大きさを設定します。(大、中、小)
「文字のスタイル」	チェックを入れると文字を太字、斜体で表示します。
「フォント」リスト	文字のフォントをリストから設定します。
「色」	部品名/ID の文字の色を設定します。

「システム」タブ

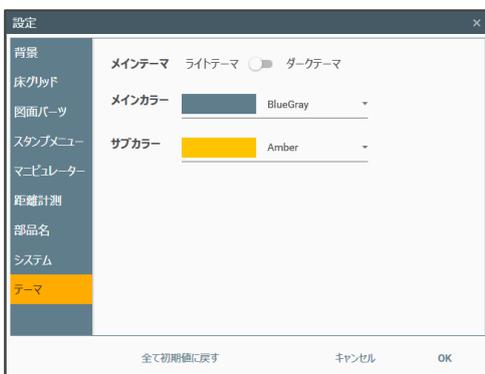


表示言語や起動の際の通知設定を変更できます。

表 2-6-1.9 「システム」タブ

項目	内容
「言語選択」リスト	インターフェースの表示言語を設定します。 (日本語、英語、ドイツ語)
「オブジェクトを削除するとき、確認メッセージを表示する」チェックボックス	オブジェクト削除時の確認メッセージを表示するか設定します。チェックを付けるとオブジェクト削除時に確認メッセージを表示します。
「ハイパーリンクをブラウザで開くとき、確認メッセージを表示する」チェックボックス	ハイパーリンクをブラウザで開く際の確認メッセージを表示するか設定します。チェックを付けるハイパーリンクを開く際に確認メッセージを表示します。
「保存時の設定」チェックボックス	チェックを付けると図面ファイル保存時に重なっている (サイズ、向き、位置が同じ) オブジェクトが存在するかチェックして、存在する場合には削除確認メッセージを表示します。
「オフィシャルサイトの新着情報を通知する」チェックボックス	チェックを付けると起動時にオフィシャルサイトに更新があるかチェックし、更新があれば通知します。
「新しいバージョンのリリース情報を通知する」チェックボックス	チェックを付けると起動時に最新バージョンがリリースされていないかチェックし、リリース情報があれば通知画面よりバージョンアップを行うことができます。

「テーマ」タブ



本アプリケーションのテーマカラーを変更できます。組み合わせることで、様々な見た目に変更することが可能です。

表 2-6-1.9 「テーマ」タブ

項目	内容
「メインテーマ」スイッチ	ベースとなるテーマカラーを設定します。 (ライトテーマ、ダークテーマ)
「メインカラー」リスト	メインカラーを設定します。メインカラーはキャプション部分やステータスバーの背景色などに利用されます。
「サブカラー」リスト	一部の重要なボタンの色を設定します。

2-6-2. 「クイックスタート」ウィンドウ



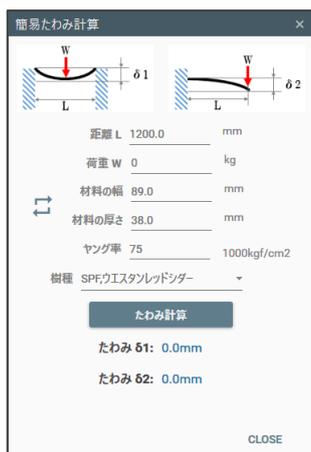
「クイックスタート」ウィンドウでは caDIY3D-X の最初に覚える操作手順などを解説しています。クイックスタートは表示していてもメインウィンドウを操作できますので、クイックスタートの解説を読みながら操作の基本をマスターできます。「クイックスタート」ウィンドウの操作方法は、クイックスタートの最初のページで解説していますので、そちらをご参照ください。

2-6-3. 「電卓」ダイアログ



「電卓」ダイアログはちょっとした計算を行うときに便利なツールです。常に前面に表示していますので、メインウィンドウで設計しながら電卓を利用することができます。操作方法は一般的な電卓と同様です。

2-6-4. 「簡易たわみ計算」ダイアログ



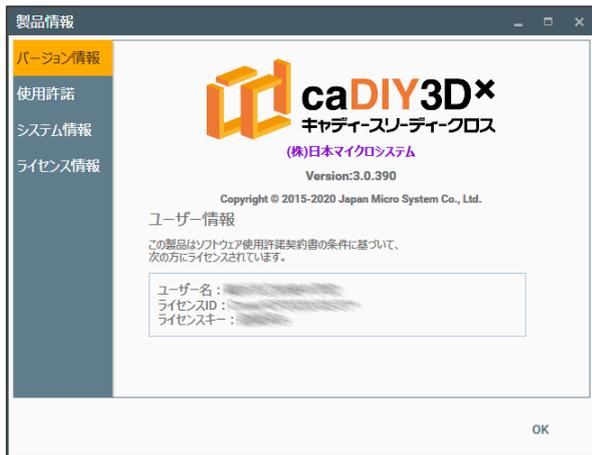
「簡易たわみ計算」ダイアログでは、荷重を受けた板などの材料がどのくらい反るか計算します。

材料の厚みが厚いほど、また支持間の距離が短いほど、たわみ量は少なくなります。

表 2-6-4.1 「簡易たわみ計算」ダイアログ

項目	内容	備考
「距離」入力エリア	材料の支持点間の長さ (mm) を入力します。	
「荷重」入力エリア	材料の支持点間の中心、または端点にかかる荷重を kg 単位で入力します。	
「材料の幅」入力エリア	荷重を受ける材の幅 (mm) を入力します。 (荷重を受ける材を上から見たときの幅)	
「材料の厚さ」入力エリア	材料の厚さ (mm) を入力します。 (荷重を受ける材料を横から見たときの厚さ)	
「  」ボタン (幅、厚さ入れ替え)	入力された材料の幅と厚さの値を入れ替えます。	
「ヤング率」入力エリア	ヤング率 (1000kgf/cm ²) を入力します。ヤング率とは変形のしにくさを表す係数で、材質ごとに決まっています。この係数が大きいほど変形しにくい材質となります。	
「樹種」リスト	このリストから樹種を選択すると、樹種に対応したヤング率が「ヤング率」入力エリアにセットされます。	
「たわみ計算」ボタン	入力したパラメータでたわみを計算します。	
「たわみ δ1」表示エリア	「たわみ計算」を実行すると、両端が支持された材料の中央に荷重が掛かった場合のたわみ量を表示します。	
「たわみ δ2」表示エリア	「たわみ計算」を実行すると、片側が支持された材料の先端に荷重が掛かった場合のたわみ量を表示します。	
「CLOSE」ボタン	「簡易たわみ計算」ダイアログを閉じます。	

2-6-5. 「製品情報」 ウィンドウ



「製品情報」ウィンドウでは本アプリケーションの登録情報、および製品情報を表示します。

表 2-6-5.1 「製品情報」 ウィンドウ

項目	内容	備考
「OK」ボタン	「製品情報」ウィンドウを閉じます。	

「バージョン情報」 タブ

本アプリケーションのバージョン情報・ユーザー情報を表示します。

「使用許諾契約書」 タブ

caDIY3D-X 使用許諾契約書を表示します。

「システム情報」 タブ

Windows のエディション、OpenGL の情報を表示します。

表 2-6-5.2 「システム情報」 タブ

項目	内容	備考
「動作ログ表示」ボタン	本アプリケーションの動作ログを表示するウィンドウを表示します。	

「ライセンス情報」 タブ

本アプリケーションで使用しているライブラリのライセンス情報を表示します。

3. ユーザー情報

ユーザー情報は図面の作成者の名前です。教育機関などでライセンス登録ユーザーと図面の作成者が異なる場合に利用します。登録すると図面印刷で作成者名を表示、印刷することができます。画面右上の「ユーザー名」をクリックすると「ユーザー情報」ダイアログが表示され、登録することができます。

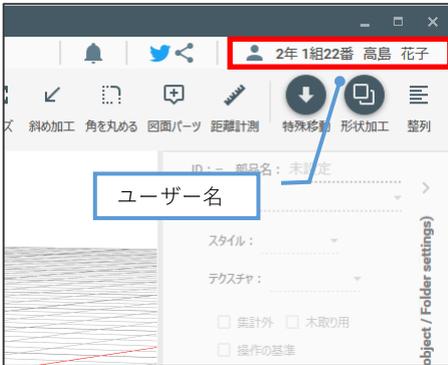


表 3.1 「ユーザー名」

項目	内容	
「ユーザー名」	初期状態ではライセンス登録ユーザー名が表示され、ユーザー情報登録後は登録したユーザー情報を表示します。クリックすると「ユーザー情報」ダイアログを表示します。	3-1 章 参照

3-1. 「ユーザー情報」ダイアログ

図面毎にユーザー情報を登録できます。登録後は図面印刷、木取り図印刷の際にユーザー情報が表示（印刷）されます。未登録時は空白となります。

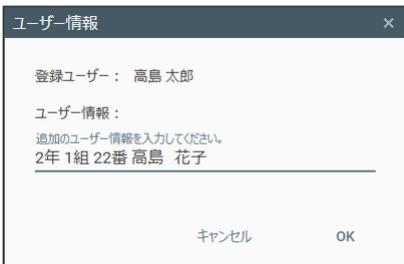


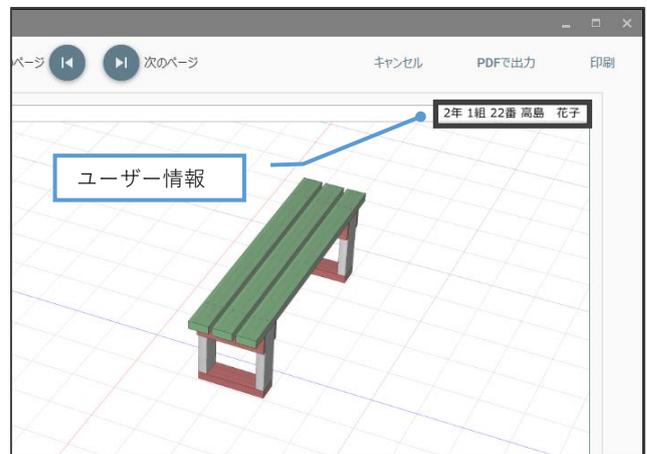
表 3-1.1 「ユーザー情報」ダイアログ

項目	内容
「登録ユーザー」	ライセンス登録した際のユーザー名です。
「ユーザー情報」 入力エリア	図面の作成者の名前（ユーザー情報）を登録できます。
「キャンセル」ボタン	「ユーザー情報」を登録せずにダイアログを閉じます。
「OK」ボタン	「ユーザー情報」を登録してダイアログを閉じます。

図 3-1.2 「木取り図印刷プレビュー」ウィンドウ



図 3-1.3 「印刷」ウィンドウ



4. Modeメニュー

Modeメニューでは各動作モードを選択します。

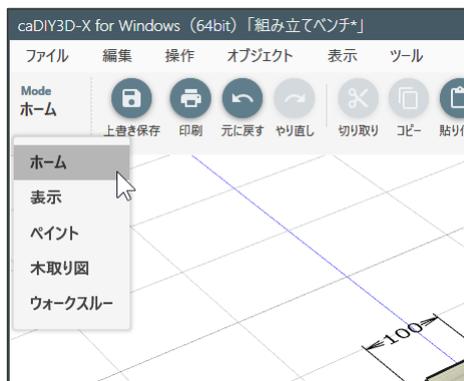


表 4.1 「Mode」メニュー

項目	内容	備考
「ホーム」モード	図面を作成する際にメインとなるモードです。	5-1章 参照
「表示」モード	図面の表示方法やカメラ再生などを行うモードです。	5-2章 参照
「ペイント」モード	材料へのペイント、塗料情報の編集を行うモードです。	5-3章 参照
「木取り図」モード	木取り図を表示、編集するモードです。	5-4章 参照 ※制限対象
「ウォークスルー」モード	3D空間内を歩く感覚（ウォークスルー）で閲覧するためのモードです。	5-5章 参照 ※制限対象

※制限対象：試用期間中、およびライセンス登録済みの場合に利用可能です。

5. 動作モード

動作モードを指定すると、ツールバーに各動作モードでよく使うボタンが表示されます。

5-1. 「ホーム」モード

「ホーム」モードを指定すると「ホーム」ツールバーが表示されます。ここから図面の操作や、オブジェクトの追加または編集ができます。



表 5-1.1 「ホーム」ツールバー

[備考欄の () 内はコマンドに対応したショートカット]

項目	内容	備考
「上書き保存」ボタン	現在の図面を上書き保存します。	(Ctrl + S) ※制限対象
「印刷」ボタン	図面を印刷します。	(Ctrl + P) 2-1-3 章 参照 ※制限対象
「元に戻す」ボタン	図面に対して行った操作を1つ前の状態に戻します。	(Ctrl + Z)
「やり直し」ボタン	「元に戻す」で行った操作を取り消します。	(Ctrl + Shift + Z)
「切り取り」ボタン	選択したオブジェクトを切り取ります。	(Ctrl + X)
「コピー」ボタン	選択オブジェクトをコピーします。	(Ctrl + C)
「貼り付け」ボタン	コピー、切り取りしたオブジェクトを同じ場所に追加します。	(Ctrl + V)
「グループ化」リスト	オブジェクトのグループ化、またはグループ化解除を設定します。	表 5-1.4 参照
「一時的に隠す」リスト	選択中のオブジェクトを一時的に非表示、またはすべてを表示します。	表 5-1.5 参照
「材料の追加」ボタン	動作モードを「材料追加」モードにします。	(A)
「移動」ボタン	オブジェクトの操作モードを「移動」モードにします。	(V)
「回転」ボタン	オブジェクトの操作モードを「回転」モードにします。	(R)
「サイズ変更」ボタン	オブジェクトの操作モードを「サイズ変更」モードにします。	(S)
「斜め加工」ボタン	オブジェクトの操作モードを「斜め加工」モードにします。	(C)
「角を丸める」ボタン	オブジェクトの操作モードを「角を丸める」モードにします。	(E)
「図面パーツ」ボタン	オブジェクトの操作モードを「図面パーツ追加」モードにします。	2-4-2 章 参照 ※制限対象
「距離計測」ボタン	オブジェクトの操作モードを「距離計測」モードにします。このモードではスナップ点から図面の中心点までの距離や、スナップ点からスナップ点までの距離を表示することができます。	
「特殊移動」リスト	選択したオブジェクトを床方向に移動する方法を表示します。	表 5-1.2 参照
「形状加工」リスト	選択した材料の形状加工方法を表示します。	表 5-1.3 参照 ※制限対象
「整列」ボタン	「材料の整列」ダイアログを表示します。	5-1-1 章 参照
「木取り図」ボタン	動作モードを「木取り図」モードにします。	※制限対象

※制限対象：試用期間中、およびライセンス登録済みの場合に利用可能です。

表 5-1.2 「特殊移動」 リスト

[備考欄の () 内はコマンドに対応したショートカット]

項目	内容	備考
「床の上に置く」 ボタン	選択したオブジェクトの下端が床に接するように移動します。	(L)
「床に落とす」 ボタン	選択したオブジェクトが他の材料に接する、または下端が床に接するように移動します。	(Ctrl+L)
「すべて床に置く」 ボタン	選択したオブジェクトごとに下端が床に接するように移動します。	(Alt+L)

表 5-1.3 「形状加工」 リスト

項目	内容	備考
「結合」 ボタン	基準となる材料に他の材料を結合した新しい材料を図面に追加します。	※制限対象
「切り欠き」 ボタン	基準となる材料から他の材料が重なった部分を削除した新しい材料を図面に追加します。	※制限対象
「切り抜き」 ボタン	基準となる材料から他の材料が重なった部分を切り抜いた新しい材料を図面に追加します。	※制限対象

※制限対象：試用期間中、およびライセンス登録済みの場合に利用可能です。

表 5-1.4 「グループ化」 リスト

[備考欄の () 内はコマンドに対応したショートカット]

項目	内容	備考
「グループ化」 ボタン	複数の選択オブジェクトを一つのグループにします。	(G)
「グループ化解除」 ボタン	選択したグループのグループ化を解除します。	(U)

表 5-1.5 「一時的に隠す」 リスト

[備考欄の () 内はコマンドに対応したショートカット]

項目	内容	備考
「一時的に隠す」 ボタン	選択中のオブジェクトを一時的に非表示にします。	(Ctrl+H)
「すべて表示」 ボタン	一時的に隠したオブジェクトを全て表示します。	(Ctrl+G)

5-1-1. 「材料の整列」 ダイアログ



「材料の整列」ダイアログでは複数のオブジェクトを選択した場合に指定した方向に材料を並び替えることができます。

表 5-1-1.1 「材料の整列」 ダイアログ

項目	内容	備考
前後のレイアウト	複数のオブジェクトを前後の方向に揃える方法を表示します。	表 5-1-1.2 参照
左右のレイアウト	複数のオブジェクトを左右の方向に揃える方法を表示します。	表 5-1-1.3 参照
上下のレイアウト	複数のオブジェクトを上下の方向に揃える方法を表示します。	表 5-1-1.4 参照
「元に戻す」 ボタン	図面に対して行った操作を 1 つ前の状態に戻します。	
「閉じる」 ボタン	「材料の整列」ダイアログを閉じます。	

表 5-1-1.2 前後のレイアウト

項目	内容	備考
「前揃え」ボタン	複数の選択オブジェクトの前端を揃えます。	
「前後中央」ボタン	複数の選択オブジェクトに対し、前後の位置を基準となるオブジェクトに揃えます。	
「前後整列」ボタン	複数の選択オブジェクトに対し、オブジェクト重心位置を前後方向に等間隔で整列します。	※有効条件あり
「後ろ揃え」ボタン	複数の選択オブジェクトの後端を揃えます。	

表 5-1-1.3 左右のレイアウト

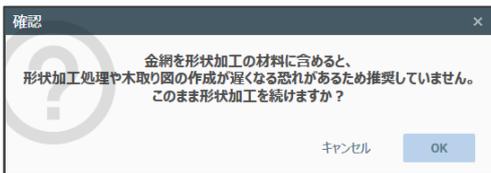
項目	内容	備考
「左揃え」ボタン	複数の選択オブジェクトの左端を揃えます。	
「左右中央」ボタン	複数の選択オブジェクトに対し、左右の位置を基準となるオブジェクトに揃えます。	
「左右整列」ボタン	複数の選択オブジェクトに対し、オブジェクト重心位置を左右方向に等間隔で整列します。	※有効条件あり
「右揃え」ボタン	複数の選択オブジェクトの右端を揃えます。	

表 5-1-1.4 上下のレイアウト

項目	内容	備考
「下揃え」ボタン	複数の選択オブジェクトの下端を揃えます。	
「上下中央」ボタン	複数の選択オブジェクトに対し、上下の位置を基準となるオブジェクトに揃えます。	
「上下整列」ボタン	複数の選択オブジェクトに対し、オブジェクト重心位置を上下方向に等間隔で整列します。	※有効条件あり
「上揃え」ボタン	複数の選択オブジェクトの上端を揃えます。	

※有効条件：3 つ以上のオブジェクトが選択されている場合に有効。

5-1-2.形状加工時の「確認」ダイアログ



金網を含む形状加工を行う際には確認メッセージを表示します。

表 5-1-2.1 形状加工時の「確認」ダイアログ

項目	内容	備考
「キャンセル」ボタン	ダイアログを閉じ、形状加工は行いません。	
「OK」ボタン	ダイアログを閉じ、形状加工を行います。	

5-2. 「表示」モード

「表示」モードを指定すると「表示」ツールバーが表示されます。ここから図面やオブジェクトの表示方法を変更することができます。



表 5-2.1 「表示」ツールバー

項目	内容	備考
「エッジのみ」ボタン	材料オブジェクトはエッジのみを表示します。	
「面のみ」ボタン	材料オブジェクトの面のみを表示します。	
「エッジ（前面）と面」ボタン	材料オブジェクトの面とエッジを表示します。背面に隠れるエッジは見えませぬ。	初期値
「エッジ（全て）と面」ボタン	材料オブジェクトの面とエッジを表示します。背面にあるエッジも透過して表示されます。	
「ワールド座標系」ボタン	マニピュレーターをワールド座標系（絶対座標系）に基づいて表示します。	
「ローカル座標系」ボタン	マニピュレーターをローカル座標系（相対座標系）に基づいて表示します。	
「文字サイズ」リスト	ワークスペースに表示するコメントや寸法などの文字、数字の大きさを図面ごとに（大/中/小）から選択します。	
「カメラ方向に表示」 チェックボックス	チェック有 数値/文字はオブジェクトの向きに関係なく、常に画面の正面を向きます。	
	チェック無 数値/文字はオブジェクトの向きに表示します。	
「キャプチャ」ボタン	「キャプチャ」モードに移行します。ワークスペースでマウスドラッグすると範囲が表示されます。ドラッグを終了すると範囲内の表示状態を画像としてクリップボードに保存します。	
「360° ビュー」ボタン	現在の注視点を中心に水平方向にカメラを 360° 周回します。	
「自動再生」ボタン	フォルダに記録されているカメラ情報を順番に繰り返し再生します。自動再生を終了するには再度「自動再生」ボタンをクリックしてください。	
「停止時間」リスト	カメラ情報再生の間隔を（2 秒/5 秒/10 秒）から選択します。	
「ホーム」ボタン	動作モードを「ホーム」モードにします。	5-1 章 参照

5-3. 「ペイント」モード

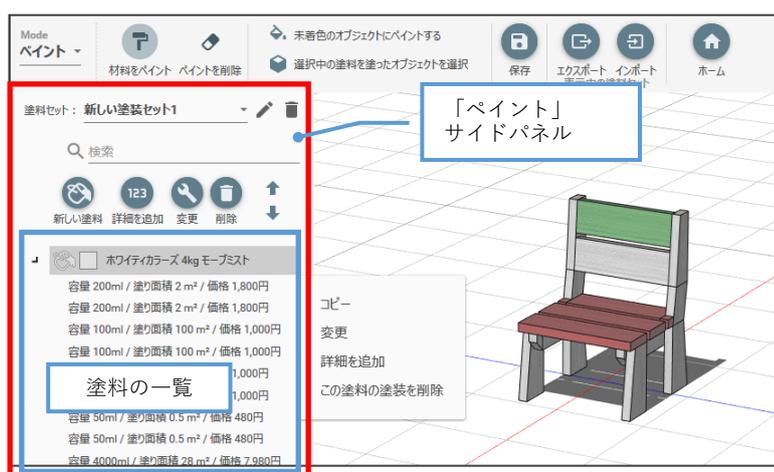
「ペイント」モードを指定すると「ペイント」ツールバーが表示されます。ここからペイント操作の指定や塗料情報の読み込み・保存ができます。画面の左側には「ペイント」サイドパネルが表示されます。



表 5-3.1 「ペイント」ツールバー

項目	内容	備考
「材料をペイント」ボタン	クリックした材料に選択した塗料をペイントするモードにします。	
「ペイントを削除」ボタン	クリックした材料を標準色に戻すモードにします。	
「未着色のオブジェクトにペイントする」ボタン	未ペイントの材料すべてに選択中の塗料をペイントします。 非表示、ロックされたオブジェクトは対象外です。	
「選択中の塗料を塗ったオブジェクトを選択」ボタン	選択中の塗料を塗ったすべての材料を選択状態にして、動作モードを「ホーム」モードにします。	5-1 章 参照
「保存」ボタン	すべての塗料セットを保存します。	
「エクスポート」ボタン	「塗料の一覧保存」ダイアログを表示して塗料情報をファイルに保存します。	
「インポート」ボタン	「開く」ダイアログを表示して塗料情報をファイルから読み込みます。	5-3-4 章 参照
「ホーム」ボタン	動作モードを「ホーム」モードにします。	5-1 章 参照

5-3-1. 「ペイント」サイドパネル



「ペイント」サイドパネルでは塗料情報の新規作成、修正、削除、および「塗料の一覧」を表示します。

表 5-3-1.1 「ペイント」サイドパネル

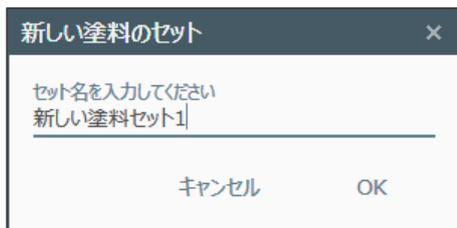
項目	内容	備考
「塗料セット」リスト	塗料セットを選択できます。「新しい塗料セット」を選択すると、新しく塗料セットを作成できます。	5-3-2 章 参照
「  」ボタン (編集)	「塗料セットの変更」ダイアログを表示して選択中の塗料セットの名称を変更できます。	5-3-3 章 参照

「  」ボタン (削除)	選択中の塗料セットを削除します。	5-3-4 章 参照
検索	入力した塗料情報 (色や塗料名称、備考、メーカー名称) で「塗料の一覧」を検索します。色を検索する場合は “#”+ 「塗料の設定」の HEX の値を入力します。	
「新しい塗料」ボタン	「塗料の設定」ダイアログを表示して塗料情報を登録できます。	5-3-5 章 参照
「詳細を追加」ボタン	「塗料の詳細情報」ダイアログを表示して塗料の容量や価格を登録します。	5-3-6 章 参照
「変更」ボタン	塗料選択時 「塗料の設定」ダイアログより塗料情報を変更します。	5-3-5 章 参照
	塗料の詳細情報選択時 「塗料の詳細設定」ダイアログより塗料詳細情報を変更します。	5-3-6 章 参照
「削除」ボタン	選択中の塗料情報、または塗料の詳細情報を削除します。	5-3-7 章 参照
「  /  」ボタン (移動)	「塗料の一覧」で選択した塗料情報、または塗料詳細情報を上下に移動します。	

表 5-3-1.2 「塗料の一覧」右クリックメニュー

項目	内容	備考
「コピー」コマンド	塗料の一覧で塗料を選択している場合 塗料をコピーして、ツリーの最後に追加します。	
	塗料の一覧で塗料の詳細情報を選択している場合 塗料の詳細情報をコピーして、選択中の塗料の最後に追加します。	
「変更」コマンド	塗料選択時 「塗料の設定」ダイアログより塗料情報を変更します。	5-3-5 章 参照
	塗料の詳細情報選択時 「塗料の詳細設定」ダイアログより塗料詳細情報を変更します。	5-3-6 章 参照
「詳細を追加」コマンド	「塗料の詳細情報」ダイアログを表示して塗料の容量や価格を登録します。	5-3-6 章 参照
「この塗料の塗装を削除」コマンド	選択した塗料でペイントしたオブジェクトを標準色に戻します。	

5-3-2. 「新しい塗料のセット」ダイアログ

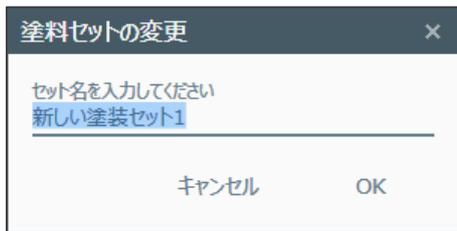


「新しい塗料のセット」ダイアログでは新しい塗料セットを登録できます。

表 5-3-2.1 「新しい塗料のセット」ダイアログ

項目	内容	備考
「キャンセル」ボタン	新しい塗料セットを登録せずにダイアログを閉じます。	
「OK」ボタン	新しい塗料セットを登録した後ダイアログを閉じます。空の塗料セットに塗料を登録することができます。	

5-3-3. 「塗料セットの変更」ダイアログ



「塗料セットの変更」ダイアログでは選択中の塗料セットの名称を変更できます。

表 5-3-3.1 「塗料セットの変更」ダイアログ

項目	内容	備考
「キャンセル」ボタン	塗料セットの名称を変更せずにダイアログを閉じます。	
「OK」ボタン	塗料セットの名称を変更してダイアログを閉じます。	

5-3-4. 塗料セット削除時の「確認」ダイアログ

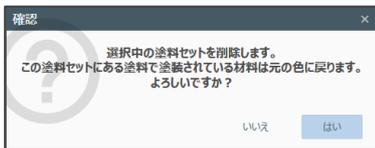


表 5-3-4.1 塗料セット削除時「確認」ダイアログ

項目	内容
「いいえ」ボタン	塗料セットを削除せずにダイアログを閉じます。
「はい」ボタン	選択中の塗料セットと塗料セットに含まれる塗料情報を削除します。選択中の塗料セットの塗料でペイントしたオブジェクトが標準色に戻ります。

5-3-5. 「塗料の設定」ダイアログ

「塗料の設定」ダイアログでは塗料の色、メーカー名、特徴、テクスチャなどの塗料の特性を設定します。このダイアログは塗料の新規作成、変更時に表示されます。

「塗料の色」タブ

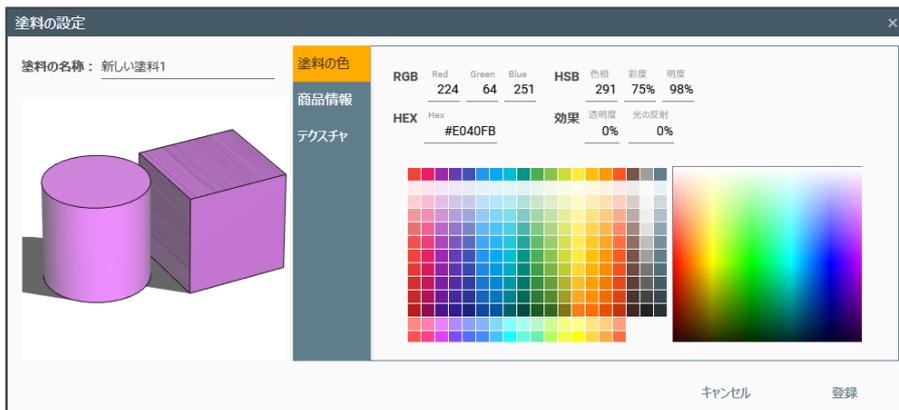


表 5-3-5.1 「塗料の色」タブ

項目	内容	備考
「塗料の名称」入力エリア	塗料の名称を入力します。	
「RGB」入力エリア	Red、Green、Blue の三原色を混ぜて色を表現します。各値の入力可能範囲は 0～255 です。	
「HSB」入力エリア	色の三属性である色相、彩度、明度を用いて色を表現します。各値の入力可能範囲は、色相は 0～360、彩度は 0～100%、明度は 0～100% です。	

「HEX」入力エリア	16進表現のカラーコードを入力します。	
「効果」入力エリア	透明度と光の反射の強さを指定します。入力可能範囲は0～100%です。	
「キャンセル」ボタン	塗料の設定を登録せずにダイアログを閉じます。	
「登録」ボタン	塗料の設定を登録してダイアログを閉じます。	

「商品情報」タブ

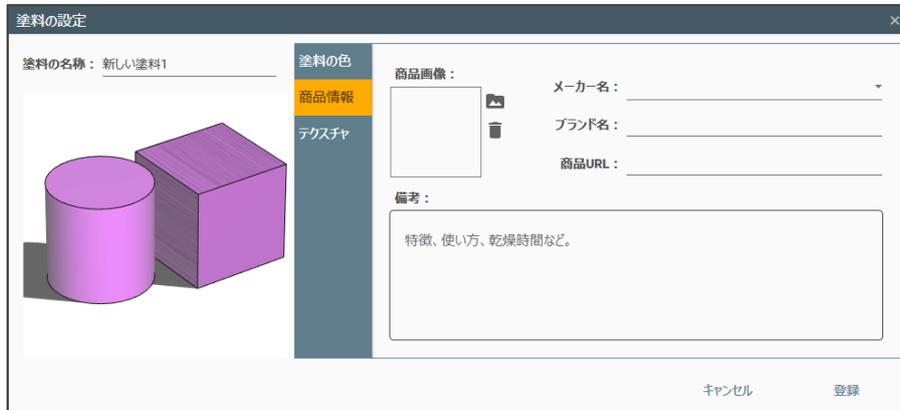


表 5-3-5.2 「商品情報」タブ

項目	内容	備考
「商品画像」	指定した商品画像を表示します。初期状態では何も表示されません。	
「  」ボタン (画像選択)	商品画像を指定する、「開く」ダイアログを表示します。	
「  」ボタン (削除)	指定されている商品画像の設定を削除します。	
「メーカー名」入力エリア	塗料のメーカー名を入力します。	
「ブランド名」入力エリア	塗料のブランド名を入力します。	
「商品 URL」入力エリア	商品の購入先などのリンク情報を登録できます。	
「備考」入力エリア	塗料の特徴などの情報を入力します。	

「テクスチャ」タブ

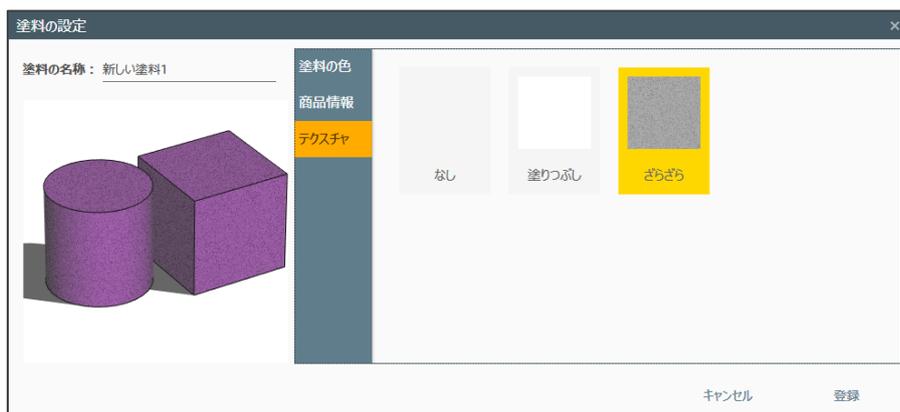


表 5-3-5.3 「テクスチャ」タブ

項目	内容	備考
「テクスチャ」	塗装後の質感を（なし/塗りつぶし/ざらざら）から選択します。	

5-3-6. 「塗料の詳細情報」ダイアログ



「塗料の詳細情報」ダイアログでは塗料の容量、塗り面積、価格などの塗料の販売情報を設定します。

表 5-3-6.1 「塗料の詳細情報」ダイアログ

項目	内容	備考
「塗料の名称」リスト	選択中の塗料セットの塗料の名称が設定されます。塗料の一覧の塗料名がリストに設定されているので同じ塗料セットの他の塗料に変更して詳細情報を登録することもできます。	
「容量」入力エリア	販売されている塗料の容量を ml 単位で入力します。1 以上の数値を入力してください。	
「塗り面積」入力エリア	販売されている塗料の塗り面積を m ² 単位で入力します。0.01 以上の数値を入力してください。	
「価格」入力エリア	販売されている塗料の価格を円単位で入力します。	
「キャンセル」ボタン	塗料の詳細情報を登録せずにダイアログを閉じます。	
「登録」ボタン	塗料の詳細情報を登録してダイアログを閉じます。	
「登録 & 続ける」ボタン	塗料の詳細情報を登録します。ダイアログを閉じずに連続して登録を続けることができます。	

5-3-7. 塗料情報削除時の「確認」ダイアログ

塗料情報削除時

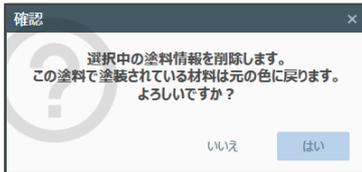


表 5-3-7.1 塗料情報削除時「確認」ダイアログ

項目	内容
「いいえ」ボタン	選択中の塗料情報を削除せずにダイアログを閉じます。
「はい」ボタン	選択中の塗料情報と塗料情報に含まれる詳細情報を削除します。選択中の塗料でペイントしていたオブジェクトが標準色に戻ります。

塗料の詳細情報削除時

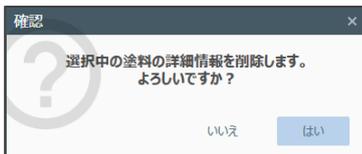


表 5-3-7.2 塗料の詳細情報削除時「確認」ダイアログ

項目	内容
「いいえ」ボタン	選択中の塗料の詳細情報を削除せずにダイアログを閉じます。
「はい」ボタン	選択中の塗料の詳細情報を削除します。

5-4. 「木取り図」モード

試用期間中、およびライセンス登録済みの場合に利用可能です。

「木取り図」モードを指定すると「木取り図」ツールバー、「木取り図」サイドパネルが表示され、木取り図を編集することができます。木取り図のパーツを選択すると連動して右側のワークスペースのパーツが選択状態になります。このワークスペースでは材料を編集することはできませんが、図面の回転や拡大縮小をすることができます。



表 5-4.1 「木取り図」ツールバー

項目	内容	備考
「切りしろ」	木取り図の各パーツ間の切りしろ（間隔）を0～10mmの範囲で指定します。	
「Zoom」	木取り図を50～200%の大きさにサイズ変更します。	
「リセット」ボタン	木取り図を再配置します。	
「上下反転」ボタン	指定した材料を上下反転します。	
「左右反転」ボタン	指定した材料を左右反転します。	
「回転」ボタン	パーツが合板、集成材の場合はパーツを90°回転します。	
「行を上移動」ボタン	選択行を1行上に移動します。	
「行を下移動」ボタン	選択行を1行下に移動します。	
「コメント行追加」ボタン	選択行の上にコメント行を挿入します。	
「改ページ追加」ボタン	選択行の上に改ページを挿入します。	
「フォルダカラー」ボタン	クリックすると設定したフォルダカラーで表示されます。もう一度クリックすると解除します。	
「印刷」ボタン	「木取り図印刷プレビュー」ウィンドウを表示します。	
「Kicori便」ボタン	「Kicori便」サービスのウィンドウを表示します。Kicori便に対応している材料で図面を作成すると、サービスを利用できます。	5-4-4章 参照
「ホーム」ボタン	動作モードを「ホーム」モードにします。	5-1章 参照

5-4-1. 「木取り図」 サイドパネル

「木取り図」 サイドパネルには木取り図、および資材リスト、塗料リストが表示されます。
ここでは木取りするベースとなるホームセンターなどで売られている状態の材料を資材と呼びます。

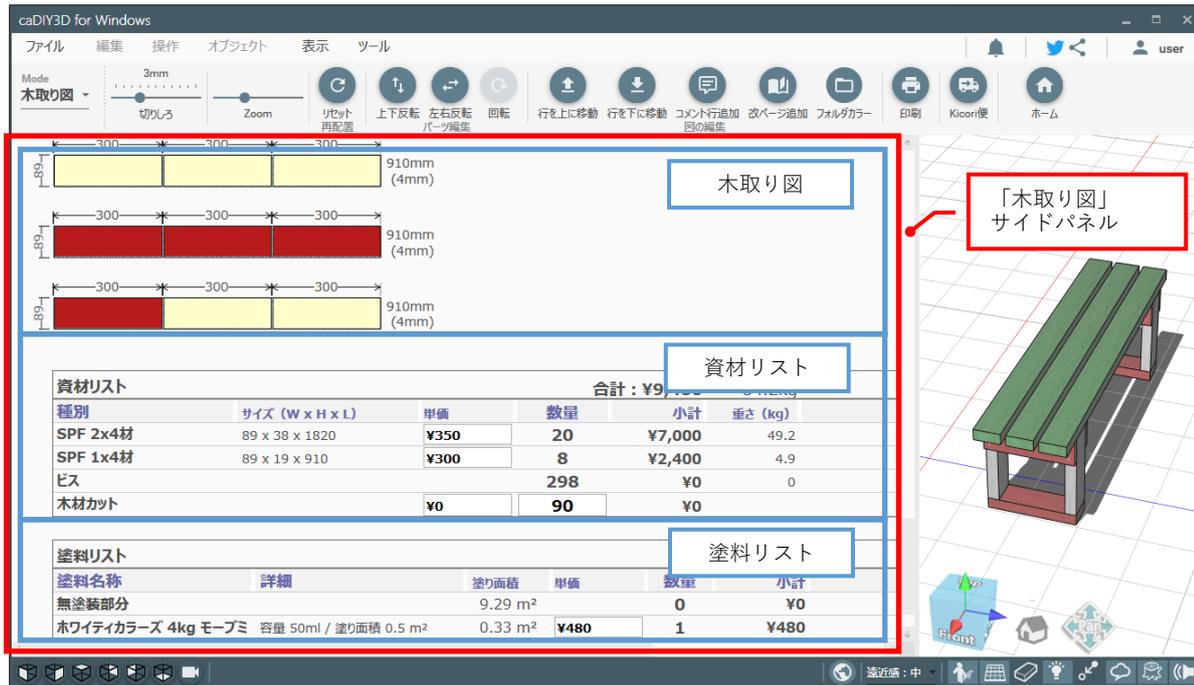


表 5-4-1.1 「木取り図」 サイドパネル

項目	内容	備考
「木取り図」	1つの資材から材料パーツをどのように切り出すか示した図です。	5-4-2章 参照
「資材リスト」	購入が必要な資材のリストです。	表 5-4-1.2 参照
「塗料リスト」	購入が必要な塗料のリストです。	表 5-4-1.3 参照

表 5-4-1.2 「資材リスト」

項目	内容	備考
「合計」	必要な資材の合計金額、合計重量です。	
「種別」	資材の種類です。	
「サイズ」	購入する際の資材のサイズです	
「単価」 入力エリア	資材の参考価格が設定されます。	入力可能
「数量」	資材の必要数量です。	
「小計」	資材の必要数を購入するのに必要な金額です。	
「重さ (kg) 」	資材の重量です。	

表 5-4-1.3 「塗料リスト」

項目	内容	備考
「合計」	購入が必要な塗料の合計金額です。	
「塗料名称」	塗料の名前です。	
「詳細」	塗料1缶の容量、塗り面積等の情報です。	
「塗り面積」	塗料を塗る面積です。	
「単価」	塗料の参考価格が設定されます。	入力可能
「数量」	塗料の必要数量です。	
「小計」	塗料の必要数を購入するのに必要な金額です。	

5-4-2. 「木取り図」

木取り図は1つの資材から実際に使用する材料パーツをどのように切り出すか示した図です。
木取り図上で材料パーツを選択してドラッグ&ドロップすることでレイアウトを変更できます。

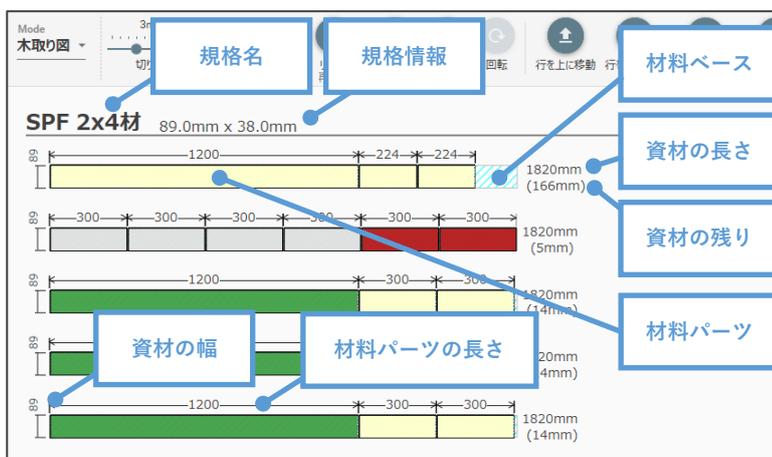


表 5-4-2.1 「木取り図」

項目	内容	備考
「規格名」	資材の名前です。	
「規格情報」	資材の幅と厚さなどの情報です。	
「材料ベース」	販売されている状態の資材です。	
「資材の長さ」	販売されている状態の長さです。	
「資材の残り」	材料パーツを切り出した後の、資材の残りの長さです。	
「材料パーツ」	実際に切り出した後の材料です。	
「資材の幅」	販売されている状態の幅です。	
「材料パーツの長さ」	個々の材料パーツの長さです。	

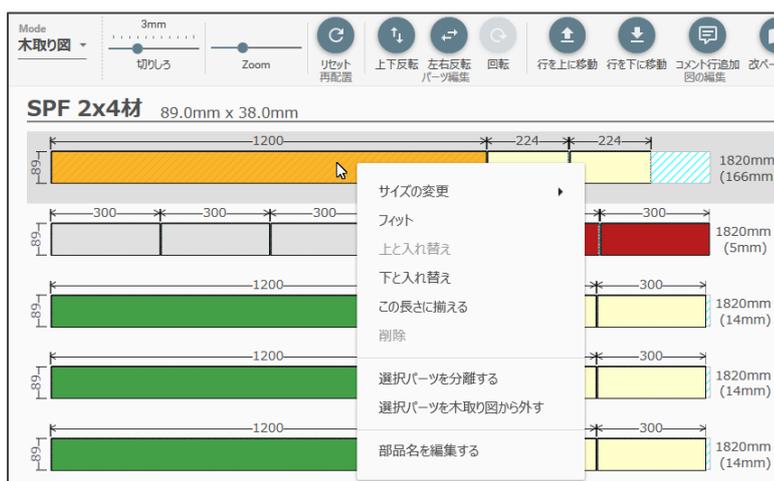


表 5-4-2.2 「木取り図」の右クリックメニュー

項目	内容	備考
「サイズの変更」	資材の長さをサブメニューから以下のサイズを選択して変更します。 (1/3/6/10/12feet、6/8尺、1/2/3/4m、900/905/910/1800/1820mm)	
「フィット」コマンド	資材の長さを、材料パーツを並べた際の長さに合わせます。	
「上と入れ替え」コマンド	同じ規格の資材同士であれば、上の資材と入れ替えをします。	
「下と入れ替え」コマンド	同じ規格の資材同士であれば、下の資材と入れ替えをします。	

「この長さに揃える」 コマンド	選択中の資材の長さに、同じ規格の他の資材の長さを揃えます。	
「削除」コマンド	コメント行、または改ページ行を削除します。コメント行、または改ページ行を選択すると有効になります。	
「選択パーツを分離する」 コマンド	新しい資材をリストの最後に追加して、その資材に選択中の材料パーツを移動します。	
「選択パーツを木取り図から 外す」コマンド	選択中の材料パーツを木取り図から外して、「サイドパネル>プロパティエリア」の「集計外」にチェックを入れた状態にします。	
「部品名を編集する」 コマンド	「部品名を編集」ダイアログを表示します。	

5-4-3. 「木取り図印刷プレビュー」ウィンドウ

「木取り図」モードで「印刷」ボタンをクリックすると「木取り図印刷プレビュー」ウィンドウが表示されます。このウィンドウには「木取り図」サイドパネルの印刷イメージが表示されます。

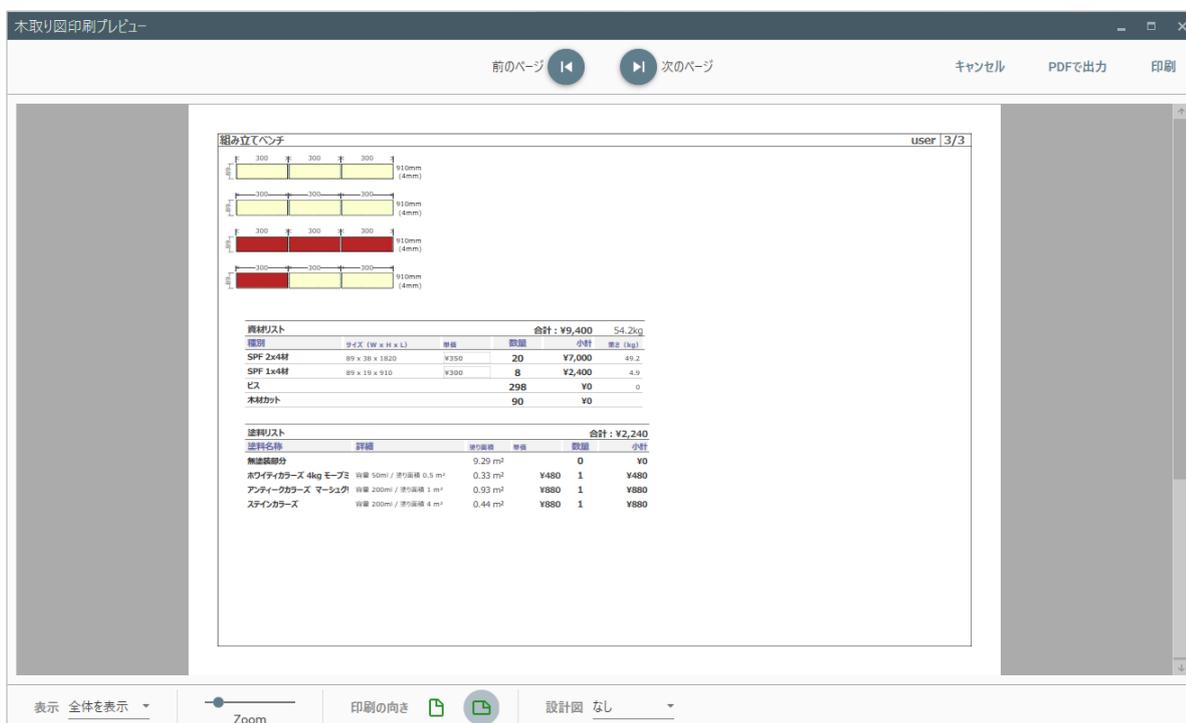
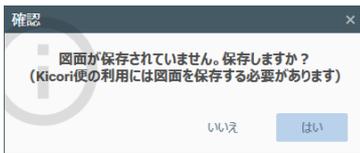


表 5-4-3.1 「木取り図印刷プレビュー」ウィンドウ

項目	内容	備考
「前のページ」ボタン / 「次のページ」ボタン	印刷プレビューに表示するページを切り替えます。	
「キャンセル」ボタン	印刷をせずに「木取り図印刷プレビュー」ウィンドウを閉じます。	
「PDFで出力」ボタン	印刷イメージを PDF ファイルとして出力します。	
「印刷」ボタン	「印刷」ダイアログが表示されます。	
「表示」リスト	印刷プレビューの表示倍率を（全体を表示/200%/150%/100%/66.7%/50%）から選択します。	
「Zoom」	木取り図を 50～200%の大きさにサイズ変更します。	
「印刷の向き」ボタン	印刷の向きを （縦方向） / （横方向）から選択します。	
「設計図」リスト	木取り図と一緒に設計図を印刷するか、また印刷するサイズを（なし/大/中/小）から選択します。	

5-4-4. 「Kicori便」 ボタンクリック時の「確認」ダイアログ



「Kicori便」のサービスでは、図面データの送付が必要になります。Kicori便対応の材料規格が利用されていること、図面データとして保存されていることを確認します。

表5-4-4.1 「Kicori便」 ボタンクリック時の「確認」ダイアログ

項目	内容	備考
「いいえ」 ボタン	図面を保存せずにダイアログを閉じます。Kicori便ウィンドウは表示されません。	
「はい」 ボタン	図面をパソコンに保存後、Kicori便ウィンドウが表示されます。	

5-5. 「ウォークスルー」 モード

試用期間中、およびライセンス登録済みの場合に利用可能です。

「ウォークスルー」モードを指定すると「ウォークスルーモード」ツールバーが表示され、視線の高さなどを設定できます。「ウォークスルー」モードでは、図面の中に自分が入り込むような感覚の表示になり、周りを見渡すような動きになります。



表 5-5.1 「ウォークスルーモード」ツールバー

項目	内容	備考
「エッジのみ」 ボタン	材料オブジェクトは面のないエッジのみで表示されます。	
「面のみ」 ボタン	材料オブジェクトは面のみのエッジなしで表示されます。	
「エッジ（前面）と面」 ボタン	材料オブジェクトはエッジと面で表示されます。面の奥に隠れるエッジは表示されません。	
「エッジ（全て）と面」 ボタン	材料オブジェクトはエッジと面で表示されます。面の奥に隠れるエッジもすべて表示されます。	
「キャプチャ」 ボタン	範囲選択モードになり、ワークスペースの範囲内をキャプチャしてクリップボードに画像で保存します。	
「360° ビュー」 ボタン	現在のカメラ位置を中心に水平方向に視線を 360° 回転します。	
「自動再生」 ボタン	フォルダに記録されているカメラ情報を順番に繰り返し再生します。自動再生を終了するには再度「  」 ボタン（自動再生）をクリックしてください。	
「停止時間」 リスト	(5 秒/2 秒/10 秒) から選択します。	
「目線の高さ」	視線の高さを 50cm～500cm の範囲で設定します。	
「目線のプリセット」 リスト	視線の高さを (子供目線 (125cm) / 幼児目線 (95cm) / 大人目線 (165cm)) から選択できます。	
「床の高さ検出」	 (スイッチを右側) にすると階段などの段差がある場合はカメラの高さを床の高さからの相対位置に自動的に調整します。	
「ホーム」 ボタン	動作モードを「ホーム」モードにします。	5-1 章 参照

5-6. 「材料追加」モード

「材料追加」モードを指定すると「材料追加」ツールバー、「材料」サイドパネルが表示され材料追加・規格編集をすることができます。「材料追加」モードにするには、「ホーム」ツールバーの「材料の追加」ボタンをクリックします。

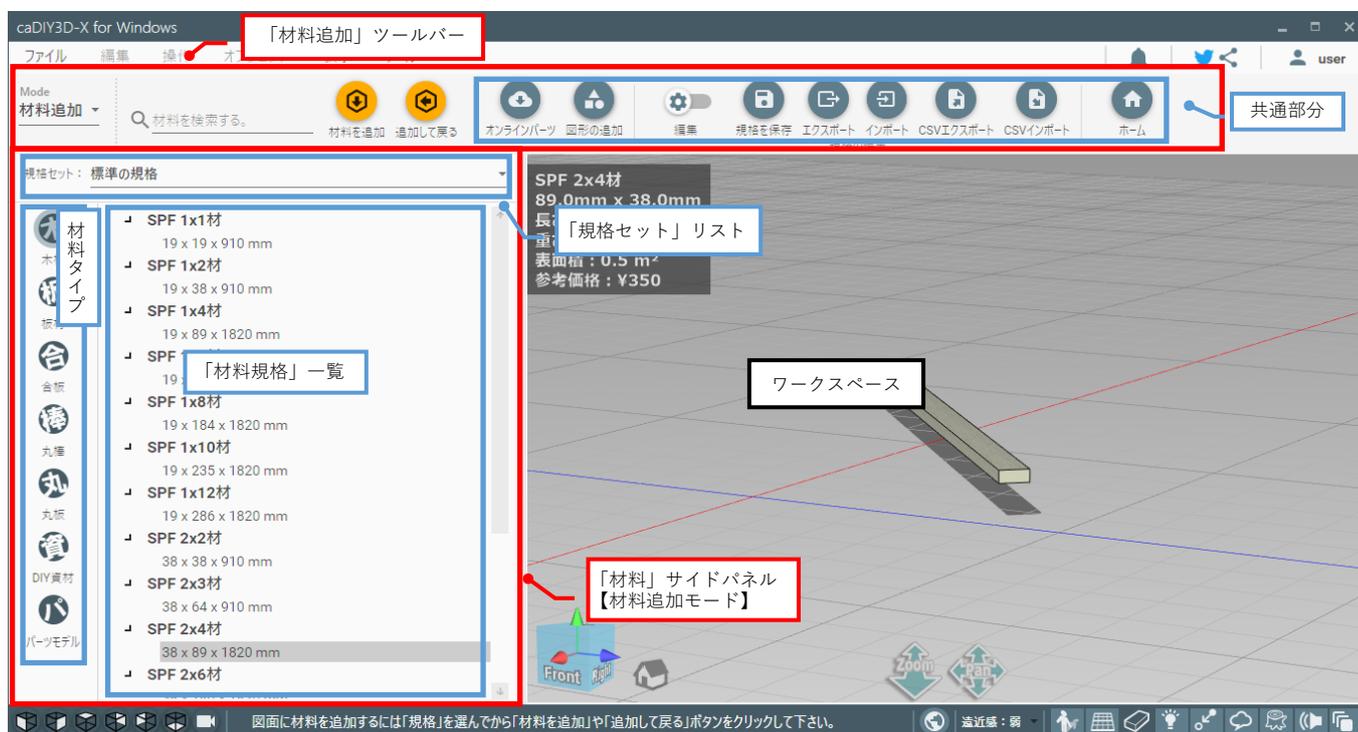


表 5-6.1 「材料追加」ツールバー【材料追加モード/材料編集モード（共通部分）】

項目	内容	備考
「オンラインパーツ」ボタン	「オンラインパーツ」ウィンドウを表示します。	5-6-1 章 参照
「図形の追加」ボタン	「図形追加ダイアログ」を表示します。	5-6-10 章参照
「編集」スイッチ	材料追加モード（左）と材料編集モード（右）を切り替えます。	5-6-5 章、5-6-6 章参照
「規格を保存」ボタン	規格を保存します。	
「エクスポート」ボタン	選択した規格をファイルに出力します。	5-6-3 章 参照
「インポート」ボタン	規格ファイルを読み込み、現在の規格を変更します。	5-6-4 章 参照
「CSV エクスポート」ボタン	木材、板材、合板、丸棒、丸板、および DIY 資材（カスタム）の規格を CSV ファイルに一括出力します。	
「CSV インポート」ボタン	木材、板材、合板、丸棒、丸板、および DIY 資材（カスタム）の規格を選択した CSV ファイルの内容に置き換えます。CSV ファイルを選択した後、「規格インポート」ウィンドウを表示します。	5-6-2 章 参照
「ホーム」ボタン	動作モードを「ホーム」モードにします。	5-1 章 参照

表 5-6.2 「材料タイプ」

項目	内容	備考
「木材」ボタン	木材の規格を「材料規格」一覧に表示します。	
「板材」ボタン	板材の規格を「材料規格」一覧に表示します。	
「合板」ボタン	合板の規格を「材料規格」一覧に表示します。	
「丸棒」ボタン	丸棒の規格を「材料規格」一覧に表示します。	
「丸板」ボタン	丸板の規格を「材料規格」一覧に表示します。	
「DIY 資材」ボタン	DIY 資材の規格を「材料規格」一覧に表示します。	
「パーツモデル」ボタン	パーツモデルの規格を「材料規格」一覧に表示します。	

5-6-1. 「オンラインパーツ」 ウィンドウ

「オンラインパーツ」 ウィンドウは公式サイトで公開しているパーツモデルを「材料規格」一覧に追加することができます。インターネット接続が必要となります。

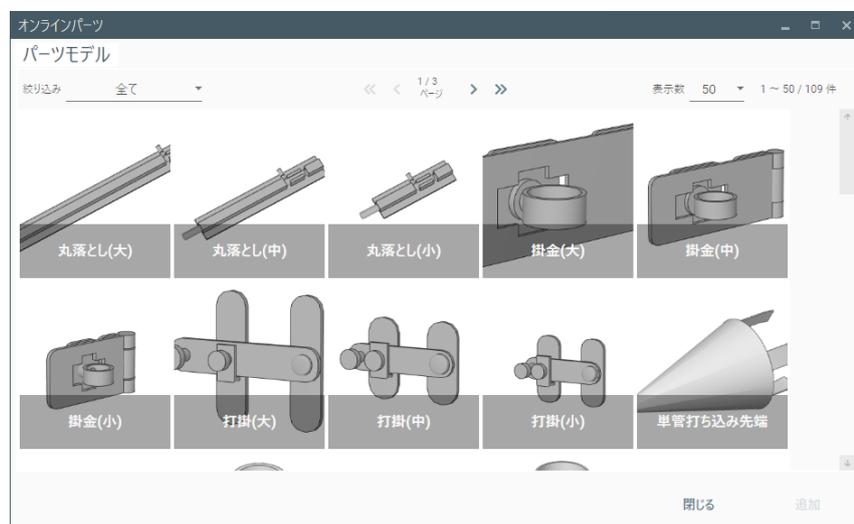


表 5-6-1.1 「オンラインパーツ」 ウィンドウ

項目	内容	備考
「絞り込み」 リスト	選択したジャンルに一致するパーツモデルを表示します。	
「ページ送り」 ボタン	「<<」 … 先頭のページを表示します。 「<」 … 前のページを表示します。 「>」 … 次のページを表示します。 「>>」 … 末尾のページを表示します。	
「表示数」 リスト	1 ページに表示するパーツモデル数を (30/50/100) から選択します。	
「モデル」 一覧エリア	パーツモデルの一覧をタイル状に表示します。クリックするとモデルが選択されます。	
「閉じる」 ボタン	「オンラインパーツ」 ウィンドウを閉じます。	
「追加」 ボタン	選択したパーツモデルをダウンロードして「材料規格」一覧のオンラインパーツに追加します。	

5-6-2. 「規格インポート」ウィンドウ

「規格インポート」ウィンドウは規格を CSV インポートする際に読み込んだ CSV データの内容チェック結果を表示します。



表 5-6-2.1 「規格インポート」ウィンドウ

項目	内容	備考
「読み込みファイル」	読み込んだファイルの保存されている場所とファイル名を表示します。	
「再読み込み」ボタン	同じファイルを再度読み込みます。	
「行番号」	読み込んだファイル内の行番号です。	
「区分名」	読み込んだ区分名です。	
「材料名」	読み込んだ材料名です。	
「読み込み結果」	○→正常 ×→エラー ■→コメント エラーがある行は規格に登録されません。	
「内容」	読み込みエラーの場合、メッセージを表示します。	
「キャンセル」ボタン	規格をインポートせずに、ダイアログを閉じます。	
「現在のセットに追加」ボタン	選択中の規格セットに読み込んだファイルの内容を追加して、ダイアログを閉じます。	
「新しいセットを作成」ボタン	新しく規格セットを作成し、その中に読み込んだファイルの内容を追加して、ダイアログを閉じます。	

5-6-3. 「規格をエクスポート」ダイアログ

「規格をエクスポート」ダイアログでは、選択中の規格セットを caDIY3D 規格データに出力することができます。プリセットされた DIY 資材、パーツモデルは一覧に表示されませんが、常に出力されます。

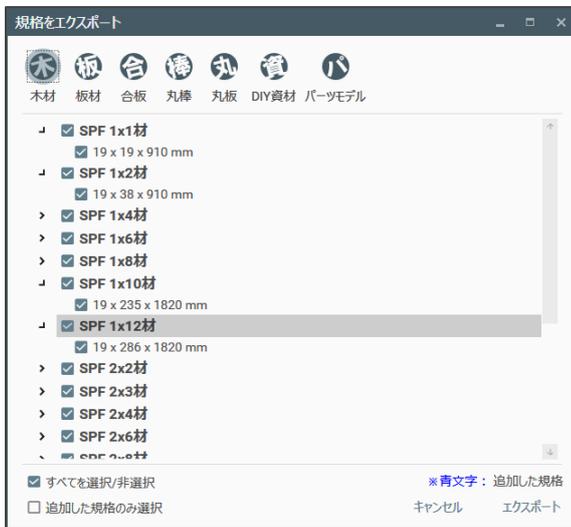


表 5-6-3.1 「規格エクスポート」ダイアログ

項目	内容	備考
「木材」ボタン	木材の規格を「材料規格」一覧に表示します。	
「板材」ボタン	板材の規格を「材料規格」一覧に表示します。	
「合板」ボタン	合板の規格を「材料規格」一覧に表示します。	
「丸棒」ボタン	丸棒の規格を「材料規格」一覧に表示します。	
「丸板」ボタン	丸板の規格を「材料規格」一覧に表示します。	
「DIY 資材」ボタン	DIY 資材の規格を「材料規格」一覧に表示します。	
「パーツモデル」ボタン	パーツモデルの規格を「材料規格」一覧に表示します。	
「すべてを選択/非選択」 チェック	チェックオンにするとすべての規格を選択し、チェックオフにするとすべての規格を非選択にします。	
「追加した規格のみ選択」 チェック	チェックオンにするとプリセット以外の追加した規格だけを選択し、チェックオフにすると追加した規格のみを非選択にします。	
「キャンセル」ボタン	規格をエクスポートせずに、ダイアログを閉じます。	
「エクスポート」ボタン	選択した規格をエクスポートして、ダイアログを閉じます。	

5-6-4. 「材料規格をインポート」ダイアログ

「規格のインポート」ダイアログは、読み込んだファイルの内容で新しい規格セットを作成するか、読み込んだファイルの内容を選択中の規格セットに追加するか選択できます。

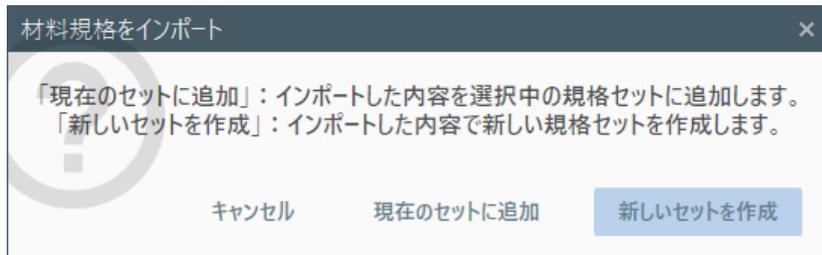


表 5-6-4.1 「材料規格をインポート」ダイアログ

項目	内容	備考
「キャンセル」ボタン	規格をインポートせずに、ダイアログを閉じます。	
「現在のセットに追加」ボタン	選択中の規格セットに読み込んだファイルの内容を追加して、ダイアログを閉じます。	
「新しいセットを作成」ボタン	新しく規格セットを作成し、その中に読み込んだファイルの内容を追加して、ダイアログを閉じます。	

5-6-5. 材料追加モード

材料追加モードでは「材料規格」一覧で選択した規格をワークスペースに追加できるようになります。選択中の材料はワークスペースにプレビュー表示されます。

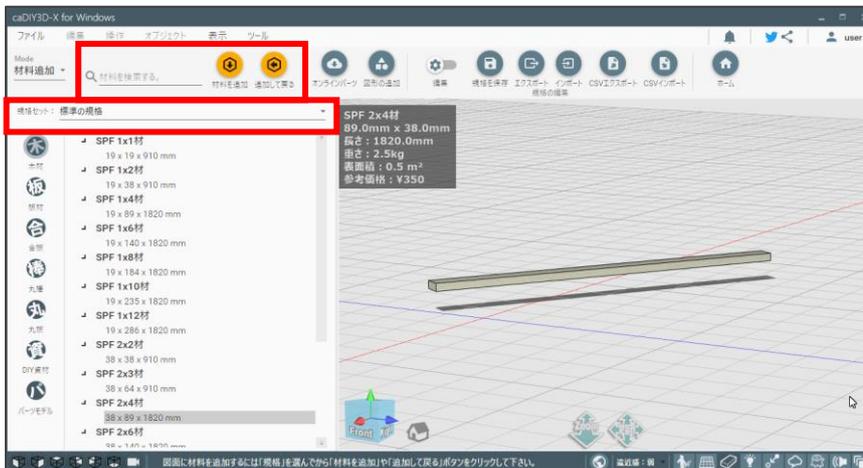


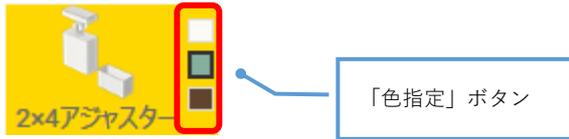
表 5-6-5.1 「材料追加」ツールバー 【材料追加モード】

項目	内容	備考
材料の名称で探す	入力した材料名称や規格の備考で「材料規格」一覧を検索します。	表 5-6-7.5、表 5-6-8.3、表 5-6-9.4 参照
「材料を追加」ボタン	図面に材料を追加します。	
「追加して戻る」ボタン	図面に材料を追加して、動作モードを「ホーム」モードにします。	5-1 章 参照

表 5-6-5.2 「材料」サイドパネル 【材料追加モード】

項目	内容	備考
「規格セット」リスト	一覧に表示する規格セットを変更できます。	

パーツモデルの一部にはカラーバリエーションが存在します。そのため、カラーバリエーションを指定する「色指定」ボタンが表示される場合があります。



5-6-6.材料編集モード（共通部分）

「材料追加」ツールバーで材料編集モードを選択すると材料の種類や規格を追加または編集できます。材料のタイプにより登録する材料情報が異なります。



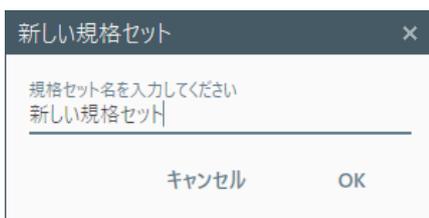
表 5-6-6.1 「材料追加」ツールバー 【材料編集モード（共通部分）】

項目	内容	備考
「リセット」ボタン	使用中の全ての規格セットをインストール時のデータに戻します。必要な規格データがある場合には、「いいえ」を押して処理を中断後、必要な規格セットを「エクスポート」後に「リセット」を再実行してください。	

表 5-6-6.2 「材料」サイドパネル【材料編集モード（共通部分）】

項目	内容	備考
「規格セット」リスト	規格セットを選択できます。「新しい規格セット」を選択すると、新しく規格セットを作成できます。	表 5-6-6.3 参照
「  」ボタン	選択中の規格セット名を変更します。	表 5-6-6.4 参照
「  」ボタン	選択中の規格セットを削除します。	
「  」ボタン	選択中の規格セットをコピーします。	表 5-6-6.5 参照

「新しい規格セット」ダイアログ



新しく空の規格セットを作成します。

表 5-6-6.3 「新しい規格セット」 ダイアログ

項目	内容	備考
「規格セット名」	作成する規格セット名を入力します。	
「キャンセル」ボタン	新しい規格セットを登録せずにダイアログを閉じます。	
「OK」ボタン	新しい規格セットを登録した後ダイアログを閉じます。空の規格セットに規格を登録することができます。	

「規格セット名の変更」ダイアログ



選択中の規格セットの名称を変更します。

表 5-6-6.4 「規格セット名の変更」 ダイアログ

項目	内容	備考
「規格セット名」	変更後の規格セット名を入力します。	
「キャンセル」ボタン	規格セットの名前を変更せずにダイアログを閉じます。	
「OK」ボタン	新しい規格セットを登録した後ダイアログを閉じます。	

「選択中の規格セットをコピー」ダイアログ



選択中の規格セットをコピーして新しい規格セットを作成します。

表 5-6-6.5 「選択中の規格セットをコピー」 ダイアログ

項目	内容	備考
「規格セット名」	コピー後の規格セット名を入力します。	
「キャンセル」ボタン	新しい規格セットを登録せずにダイアログを閉じます。	
「OK」ボタン	新しい規格セットを登録した後ダイアログを閉じます。選択中の規格セットをコピーして規格セットを作成します。	

5-6-7.材料編集モード（木材/板材/合板/丸棒/丸板）

「材料追加」ツールバーで材料編集モードを選択するとツールバーの内容が材料編集用にかわり材料の種類や規格を追加または編集できます。

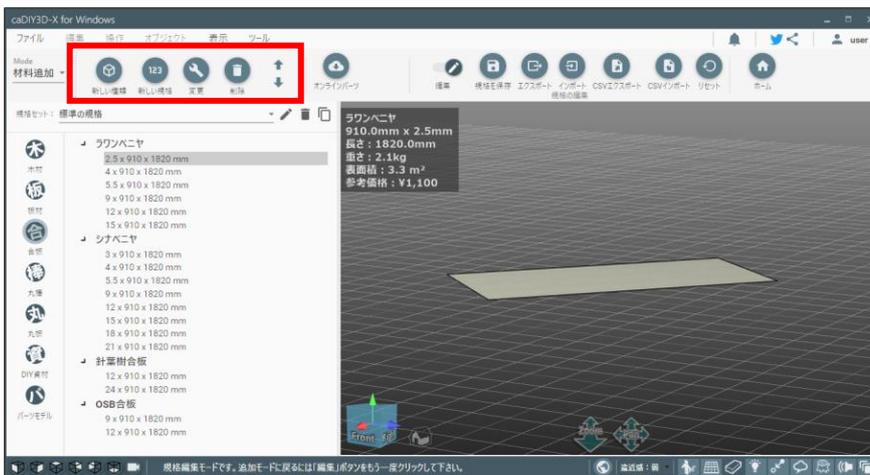


表 5-6-7.1 「材料」ツールバー【材料編集モード（木材/板材/合板/丸棒/丸板）】

項目	内容	備考
「新しい種類」ボタン	材料の種類とは、樹種や仕様などで分類できる材料の区分を意味します。 「材料の種類」ダイアログが表示されて種類を追加できます。	表 5-6-7.2 参照
「新しい規格」ボタン	「材料の規格」ダイアログが表示されて材料のサイズや価格などを登録できます。	表 5-6-7.5 参照
「変更」ボタン	材料種類選択時は「材料の種類の変更」ダイアログを開きます。 材料規格選択時は「材料の規格の変更」ダイアログを開きます。	
「削除」ボタン	選択中の種類または規格を削除します。	
「↑ / ↓」ボタン (移動)	選択中の種類または規格を上下に移動します。	

「材料の種類」ダイアログ（木材/板材/合板/丸棒/丸板）



材料タイプが木材/板材/合板/丸棒/丸板の場合に材料の種類の情報を追加できます。

表 5-6-7.2 「材料の種類」ダイアログ（木材/板材/合板/丸棒/丸板）

項目	内容	備考
「名称」入力エリア	材料種類名を入力します。	入力必須項目 検索対象項目
「テクスチャ」リスト	材料の質感を出すため以下よりテクスチャを選択できます。 (なし/木目/集成材/ベニヤ/OSB/縞鋼板)	

「色」リスト	材料の色を以下より選択できます。 (標準の色/ヒノキ/スギ/レッドシダー/ウリン/その他の色) 「その他の色」を選択すると「色の選択」ダイアログを表示します。	表 5-6-7.4 参照
「透明度」	材料の透明度を設定できます。(0~100)	
「備考」入力エリア	材料の特徴や使い方など、任意の情報を入力することができます。	
「キャンセル」ボタン	材料種類を登録せずに、ダイアログを閉じます。	
「登録」ボタン	材料種類を登録して、ダイアログを閉じます。	

「材料の種類の変更」ダイアログ (木材/板材/合板/丸棒/丸板)



材料タイプが木材/板材/合板/丸棒/丸板の場合に
選択中の材料の種類の情報を変更できます。

表 5-6-7.3 「材料の種類の変更」ダイアログ (木材/板材/合板/丸棒/丸板)

項目	内容	備考
「名称」入力エリア	材料種類名を入力できます。	検索対象項目
「テクスチャ」リスト	材料の質感を出すため以下よりテクスチャを選択できます。 (なし/木目/集成材/ベニヤ/OSB/縞鋼板)	
「色」リスト	材料の色を以下より選択できます。 (標準の色/ヒノキ/スギ/レッドシダー/ウリン/その他の色) 「その他の色」を選択すると「色の選択」ダイアログを表示します。	表 5-6-7.4 参照
「透明度」	材料の透明度を設定できます。(0~100)	
「備考」入力エリア	材料の特徴や使い方など、任意の情報を入力できます。	
「キャンセル」ボタン	材料種類の内容を登録せずに、ダイアログを閉じます。	
「登録」ボタン	材料種類の内容を登録して、ダイアログを閉じます。	

「色の選択」ダイアログ



「色の選択」ダイアログでは材料等の色を指定できます。

表 5-6-7.4 「色の選択」ダイアログ

項目	内容	備考
「RGB」入力エリア	Red、Green、Blue の三原色を混ぜて色を表現します。 各値の入力可能範囲は 0～255 です。	
「HSB」入力エリア	色の三属性である色相、彩度、明度を用いて色を表現します。 各値の入力可能範囲は、色相は 0～360、彩度は 0～100%、明度は 0～100% です。	
「HEX」入力エリア	16 進表現のカラーコードを入力します。	
「色」	右：現在の色を表示します。 左：カラーパレットで選択した変更後の色を表示します。	
「キャンセル」ボタン	色を変更せずにダイアログを閉じます。	
「OK」ボタン	色を変更してダイアログを閉じます。	

「材料の規格」ダイアログ（木材/板材/合板/丸棒/丸板）



材料タイプが木材/板材/合板/丸棒/丸板の場合に
選択中の材料の種類にサイズ・価格等の情報を登録できます。

表 5-6-7.5 「材料の規格」ダイアログ（木材/板材/合板/丸棒/丸板）

材料種類	項目	内容	備考
共通	「名称」リスト	規格を登録する材料種類を選択します。	入力必須項目 検索対象項目
	「重さ」入力エリア	材料の重さを g 単位で入力します。	入力必須項目
	「価格」入力エリア	ホームセンター等で購入した場合の参考価格（円）を入力できます。	
	「備考」入力エリア	材料規格の特徴や使い方など、任意の情報を入力できます。	検索対象項目
	「キャンセル」ボタン	材料規格を登録せずにダイアログを閉じます。	
	「登録」ボタン	材料規格を登録してダイアログを閉じます。	
	「登録 & 続ける」ボタン	材料規格を登録してダイアログは閉じません。登録を続行できます。	

丸棒/丸板	「直径」入力エリア	材料の直径を mm 単位で入力します。	入力必須項目
丸棒以外	「材料の厚み」入力エリア	材料の厚さを mm 単位で入力します。	入力必須項目
丸棒/丸板以外	「材料の幅」入力エリア	材料の幅を mm 単位で入力します。	入力必須項目
丸板以外	「材料の長さ」入力エリア	材料の長さを mm 単位で入力します。	入力必須項目

「材料の規格の変更」ダイアログ（木材/板材/合板/丸棒/丸板）



材料タイプが木材/板材/合板/丸棒/丸板の場合に
選択している材料の規格の情報を変更できます。

表 5-6-7.6 「材料の規格の変更」ダイアログ（木材/板材/合板/丸棒/丸板）

材料種類	項目	内容	備考
共通	「名称」リスト	規格を登録する材料種類を表示します。	変更不可 検索対象項目
	「重さ」入力エリア	材料の重さを g 単位で入力します。	入力必須項目
	「価格」入力エリア	ホームセンター等で購入した場合の参考価格（円）を入力します。	
	「備考」入力エリア	材料規格の特徴や使い方など、任意の情報を入力します。	検索対象項目
	「キャンセル」ボタン	材料規格を登録せずにダイアログを閉じます。	
	「登録」ボタン	材料規格を登録してダイアログを閉じます。	
丸棒/丸板	「直径」入力エリア	材料の直径を mm 単位で入力します。	入力必須項目
丸棒以外	「材料の厚み」入力エリア	材料の厚さを mm 単位で入力します。	入力必須項目
丸棒/丸板以外	「材料の幅」入力エリア	材料の幅を mm 単位で入力します。	入力必須項目
丸板以外	「材料の長さ」入力エリア	材料の長さを mm 単位で入力します。	入力必須項目

5-6-8.材料編集モード（DIY 資材）

「材料追加」ツールバーで材料編集モードを選択すると材料の種類や規格を追加または編集できます。材料のタイプにより登録する材料情報が異なります。この項は DIY 資材を選択時の内容です。

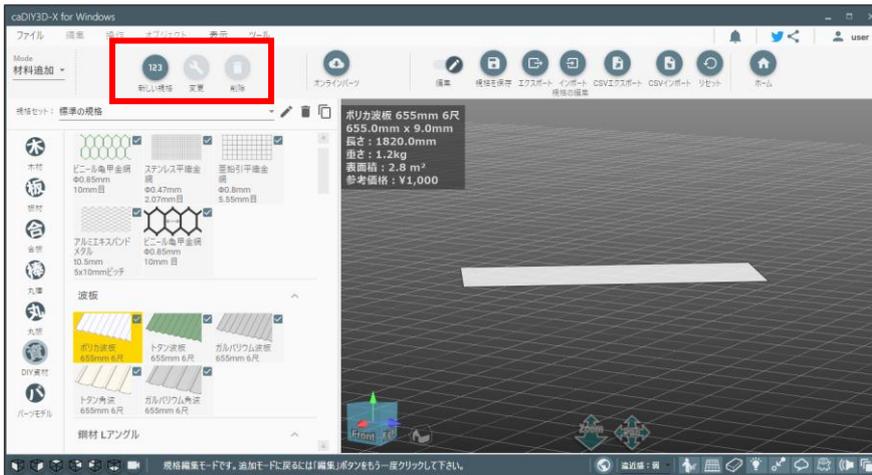


表 5-6-8.1 「材料追加」ツールバー【材料編集モード（DIY 資材）】

項目	内容	備考
「新しい規格」ボタン	あらかじめ登録されているモデルに対して、新しく規格を追加します。 「DIY 資材 カスタマイズ 新しい規格」ダイアログを開きます。選択したモデルによって設定できる内容が変わります。	表 5-6-8.2、表 5-6-8.3 参照
「変更」ボタン	選択した規格が「新しい規格」ボタンから追加した規格の場合には設定内容を変更できます。「DIY 資材 カスタマイズ 規格の変更」ダイアログを開きます。	表 5-6-8.2、表 5-6-8.3 参照
「削除」ボタン	選択した規格が「新しい規格」ボタンから追加した規格の場合には規格を削除できます。	

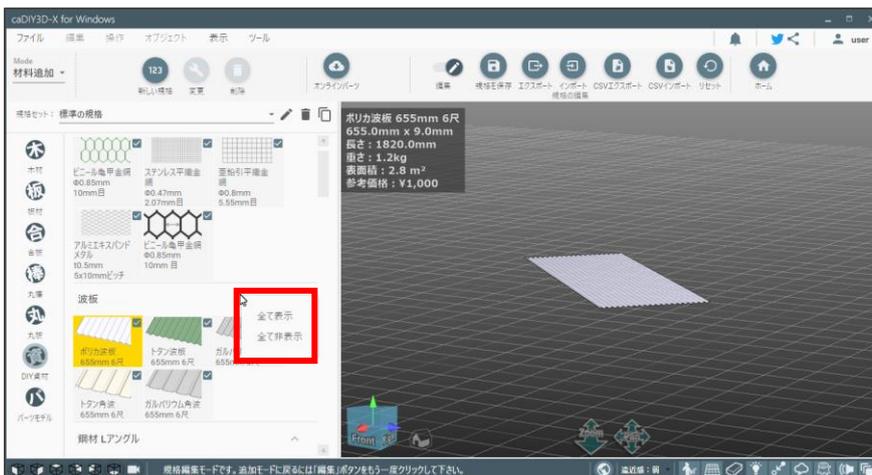


表 5-6-8.2 材料モデル 右クリックメニュー【材料編集モード（DIY 資材）】

項目	内容	備考
「全て表示」コマンド	選択したモデルの中の、全ての規格にチェックが入ります。材料追加モードで全て表示されるようになります。	
「全て非表示」コマンド	選択したモデルの中の、全ての規格のチェックが外れます。材料追加モードで全て非表示になります。	

「DIY 資材 カスタマイズ 新しい規格」ダイアログ

「DIY 資材 カスタマイズ 新しい規格」ダイアログでは選択中の DIY 資材のモデルに新しい規格の情報を追加できます。モデルにより登録する内容が異なります。

金網資材

DIY資材 カスタマイズ 新しい規格

材料の名称を入力してください。
名称 ビニール亀甲金網

色  資材の幅 450 mm

線径 0.85 mm 資材の長さ 1000 mm

網目 10 mm 重さ 330 g

価格 1200 円

備考:
特徴、使い方など。

キャンセル 登録

波板

DIY資材 カスタマイズ 新しい規格

材料の名称を入力してください。
名称 ポリカ波板

色  資材の幅 655 mm

透明度 20 % 資材の長さ 1820 mm

光の反射 50 % 重さ 1200 g

価格 1000 円

備考:
特徴、使い方など。

キャンセル 登録

鋼材 L アングル

DIY資材 カスタマイズ 新しい規格

高さ 20 mm 厚さ 3 mm 資材の長さ 1000 mm

幅 20 mm 価格 300 円

備考:
特徴、使い方など。

キャンセル 登録

鋼材 フラットバー

DIY資材 カスタマイズ 新しい規格

厚さ 3 mm 資材の長さ 1000 mm

幅 19 mm 価格 250 円

備考:
特徴、使い方など。

キャンセル 登録

鋼材 角パイプ

DIY資材 カスタマイズ 新しい規格

高さ 19 mm 厚さ 1.6 mm 資材の長さ 1000 mm

幅 19 mm 価格 450 円

備考:
特徴、使い方など。

キャンセル 登録

鋼材 H 形鋼

DIY資材 カスタマイズ 新しい規格

高さ 100 mm 厚さ 8 mm 資材の長さ 1000 mm

幅 100 mm 価格 3200 円

備考:
特徴、使い方など。

キャンセル 登録

鋼材 C 形鋼

DIY資材 カスタマイズ 新しい規格

高さ 30 mm 厚さ 2.3 mm 資材の長さ 1000 mm

幅 60 mm 価格 702 円

備考:
特徴、使い方など。

キャンセル 登録

鋼材 T 形鋼

DIY資材 カスタマイズ 新しい規格

高さ 50 mm 厚さ 5 mm 資材の長さ 4000 mm

幅 50 mm 価格 12000 円

備考:
特徴、使い方など。

キャンセル 登録

アルミ材 L アングル

DIY資材 カスタマイズ 新しい規格

高さ 15 mm 厚さ 1.5 mm 資材の長さ 1000 mm

幅 15 mm 価格 310 円

備考:
特徴、使い方など。

キャンセル 登録

アルミ材 フラットバー

DIY資材 カスタマイズ 新しい規格

厚さ 2 mm 資材の長さ 1000 mm

幅 10 mm 価格 200 円

備考:
特徴、使い方など。

キャンセル 登録

アルミ材 角パイプ

DIY資材 カスタマイズ 新しい規格

高さ 15 mm 厚さ 1.5 mm 資材の長さ 1000 mm

幅 15 mm 価格 600 円

備考:
特徴、使い方など。

キャンセル 登録

アルミ材 チャンネル

DIY資材 カスタマイズ 新しい規格

高さ 10 mm 厚さ 1.6 mm 資材の長さ 1000 mm

幅 10 mm 価格 350 円

備考:
特徴、使い方など。

キャンセル 登録

丸パイプ

DIY資材 カスタマイズ 新しい規格

厚さ 1.8 mm 資材の長さ 1000 mm 価格 500 円

外径 48.6 mm

備考:

特徴、使い方など。

キャンセル 登録

表 5-6-8.3 「DIY 資材 カスタマイズ 新しい規格」 ダイアログ 【各モデル共通設定項目】

項目	内容	備考
「資材の長さ」 入力エリア	材料の長さを mm 単位で入力します。	入力必須項目
「価格」入力エリア	ホームセンター等で購入する場合の参考価格を入力します。	
「備考」入力エリア	材料規格の特徴や使い方など、任意の情報を入力します。	検索対象項目
「キャンセル」ボタン	新しい規格を追加せずに、ダイアログを閉じます。	
「登録」ボタン	新しい規格を追加して、ダイアログを閉じます。	

表 5-6-8.4 「DIY 資材 カスタマイズ 新しい規格」 ダイアログ 【各モデル個別設定項目】

モデル	項目	内容	備考
丸パイプ以外	「資材の幅」入力エリア	材料の幅を mm 単位で入力します。	入力必須項目
金網	「線径」入力エリア	金網を構成する線の太さを mm 単位で入力します。	入力必須項目
	「網目」入力エリア	金網の網目の内側の寸法を mm 単位で入力します。	入力必須項目
金網/波板	「名称」入力エリア	資材の名称を入力します。	入力必須項目 検索対象項目
	「色」ボタン	「色の選択」ダイアログを表示します。選択した色で資材の色を設定します。	表 5-6-7.4 参照
	「重さ」入力エリア	資材の重さを g 単位で入力します。	入力必須項目
波板	「透明度」	波板の透明度を 0~100%の範囲で設定します。	
	「光の反射」	波板の光の反射度を 0~100%で設定します。	
金網/波板以外	「厚さ」入力エリア	資材の厚さを mm 単位で入力します。	入力必須項目
金網/波板/鋼材フラットバー/アルミ材フラットバー/丸パイプ以外	「高さ」入力エリア	資材の高さを mm 単位で入力します。	入力必須項目
丸パイプ	「外径」入力エリア	資材の外径を mm 単位で入力します。	入力必須項目

「DIY 資材 カスタマイズ 規格の変更」 ダイアログ

「DIY 資材 カスタマイズ 規格の変更」ダイアログでは選択中の規格の情報を変更できます。

あらかじめ登録されている規格以外の追加規格が対象となります。

ダイアログの内容は「DIY 資材 カスタマイズ 新しい規格」と同じです。

5-6-9.材料編集モード（パーツモデル）

「材料追加」ツールバーで材料編集モードを選択すると材料の種類や規格を追加または編集できます。材料のタイプにより登録する材料情報が異なります。この項はパーツモデルを選択時の内容です。

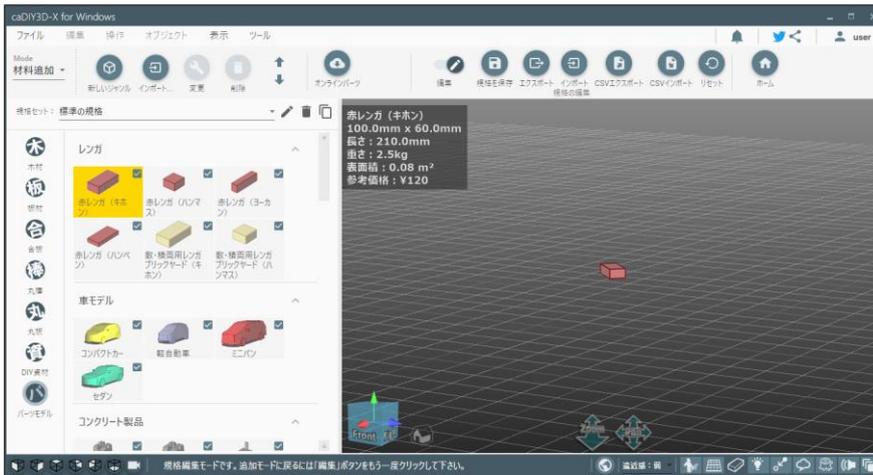


表 5-6-9.1 「材料追加」ツールバー【材料編集モード（パーツモデル）】

項目	内容	備考
「新しいジャンル」ボタン	「新しいジャンル」ダイアログが開きます。	表 5-6-9.3 参照
「インポート…」ボタン	「開く」ダイアログが開くので、インポートする 3D モデルデータ (*.stl/*.obj/*.mqo) を選択します。選択後にデータをインポートして「Model Import」ダイアログが表示されます。	※制限対象
「変更」ボタン	パーツモデルを選択した場合には「Model Import」ダイアログが開き、パーツモデルの設定を変更できます。	※有効条件
「削除」ボタン	選択したパーツモデルがオンラインパーツや「インポート」ボタンから追加したパーツモデルの場合には削除できます。	
「↑ / ↓」ボタン (移動)	選択したパーツモデルのジャンル全体を上下に移動します。	

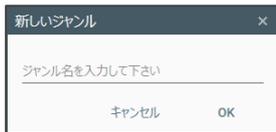
※有効条件：あらかじめ登録されている規格以外の追加規格が対象。

※制限対象：試用期間中、およびライセンス登録済みの場合に利用可能です。

表 5-6-9.2 「ジャンル名」右クリックメニュー【材料編集モード（パーツモデル）】

項目	内容	備考
「名前の変更」コマンド	選択したジャンル名を変更します。	
「削除」コマンド	選択したジャンルグループ全体を削除します。	
「上へ移動」コマンド	選択したジャンルグループ全体を上へ移動します。	
「下へ移動」コマンド	選択したジャンルグループ全体を下へ移動します。	
「全て表示」ボタン	選択したジャンルグループの中の全てのパーツモデルにチェックが入ります。材料追加モードで全て表示されるようになります。	
「全て非表示」ボタン	選択したジャンルグループの中の全てのパーツモデルのチェックが外れます。材料追加モードで全て非表示になります。	

「新しいジャンル」ダイアログ



「新しいジャンル」ダイアログはパーツモデルの「材料規格」一覧の末尾に新しいジャンルグループを追加します。

表 5-6-9.3 「新しいジャンル」ダイアログ

項目	内容	備考
「ジャンル名」入力エリア	ジャンル名を入力します。パーツモデルの「材料規格」一覧の末尾に新しいジャンルグループを追加します。	
「キャンセル」ボタン	新しいジャンルを追加せずにダイアログを閉じます。	
「OK」ボタン	新しいジャンルグループを追加します。	

「Model Import」ダイアログ



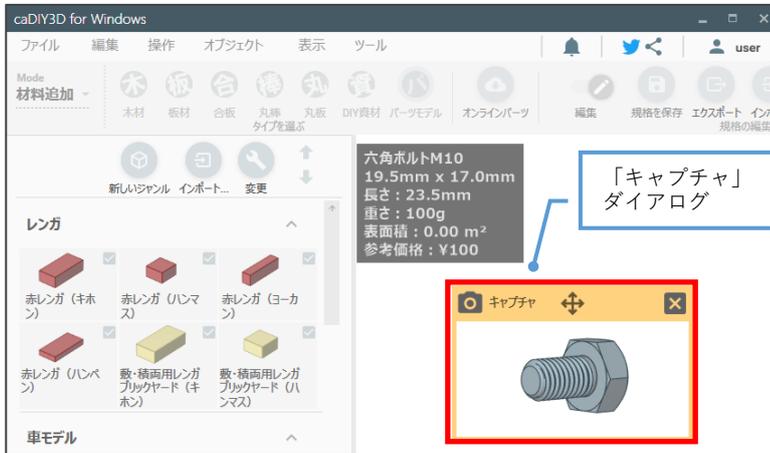
「Model Import」ダイアログはモデルデータが正常にインポートされた際、またはパーツモデルを変更する際に表示されます。このときにワークスペースにはモデルがプレビューされます。

表 5-6-9.4 「Model Import」ダイアログ

項目	内容	備考
「ジャンル名」リスト	モデルのジャンルを指定します。「新しいジャンル」を選択すると新しくジャンルを追加します	表 5-6-9.3 参照 変更時は指定不可
「名称」入力エリア	モデル名称を入力します。	入力必須項目 検索対象項目
「元データ単位」リスト	モデルデータの単位を (mm/m/inch) から選択します。	
「元データ縦軸」リスト	モデルデータの縦軸を (X 軸/Y 軸/Z 軸) から選択します。	
「色」ボタン	「色の選択」ダイアログを表示します。選択した色でパーツモデルの色を設定します。	表 5-6-7.4 参照
「透明度」	透明度を%で設定します。	
「光の反射」	光の反射度を%で設定します。	
「モデルのイメージ」	モデルのイメージ画像が表示されます。初期状態はデフォルト画像です。	
「  ボタン (キャプチャ)	「キャプチャ」ダイアログが表示されます。キャプチャした画像を「モデルのイメージ」に設定します。	表 5-6-9.5 参照
「  ボタン (画像ファイルから)	ファイル選択ダイアログを表示します。画像ファイルを選択して「モデルのイメージ」に設定します。	
「  ボタン (デフォルト画像へ)	「モデルのイメージ」をデフォルト画像に戻します。	
「重さ」入力エリア	重さを g 単位で入力します。	
「価格」入力エリア	パーツの価格を入力します。	

「備考」入力エリア	パーツの特徴や使い方など、任意の情報を入力します。	検索対象項目
「キャンセル」ボタン	パーツモデルを登録や変更をせずにダイアログを閉じます。	
「OK」ボタン	「Model Import」ダイアログを閉じて選択されたジャンルにパーツモデルを登録します。入力内容が誤っている場合は、確認メッセージを表示します。	

「キャプチャ」ダイアログ



「キャプチャ」ダイアログはパーツモデルのインポート時のプレビューをキャプチャしてパーツモデルのイメージに設定することができます。または追加したパーツモデルを変更する際にも利用できます。

表 5-6-9.5 「キャプチャ」ダイアログ

項目	内容	備考
「📷」ボタン (キャプチャ)	「キャプチャ」ダイアログ枠内の表示を「Model Import」ダイアログの「モデルのイメージ」に設定します。※ダイアログで「OK」ボタンを押すと「材料規格」一覧にモデルのイメージに反映されます。	
「📏」アイコン (移動)	アイコンをドラッグすると「キャプチャ」ダイアログを移動することができます。	

5-6-10. 「図形追加」ダイアログ

「材料追加」ツールバーで「図形の追加」ボタンをクリックすると「図形追加」ダイアログが表示され、選択した図形を図面に追加できます。追加後の図形はパーツモデルとなり、サイズ変更はできません。

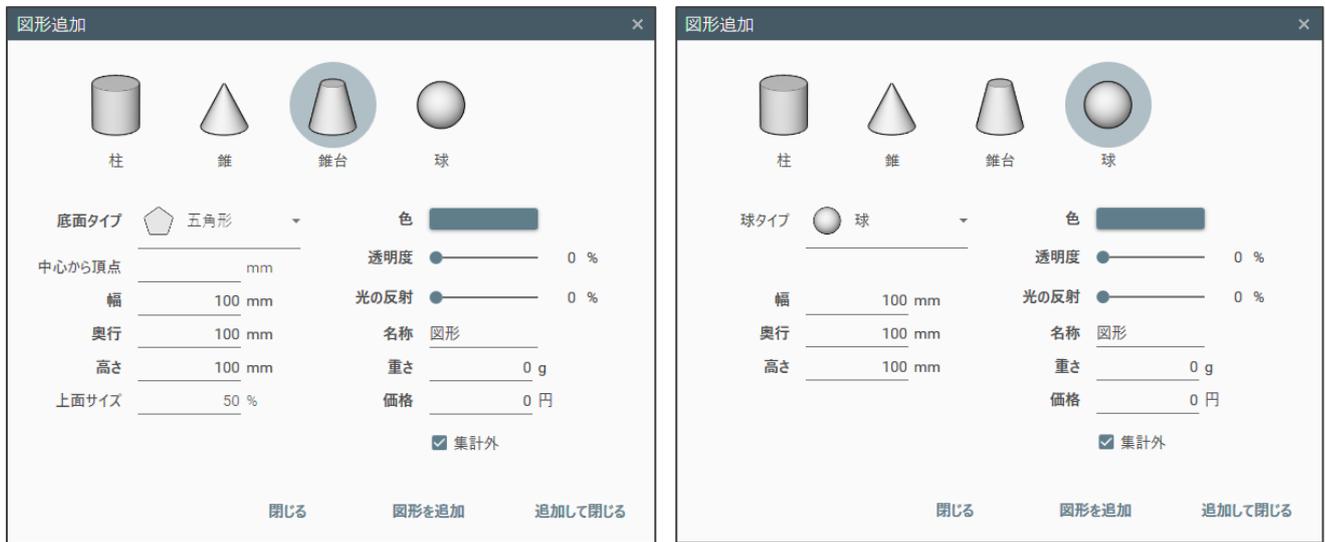


表 5-6-10 「図形追加」ダイアログ

項目	内容	備考
「柱」ボタン	図形タイプを柱にします。	
「錐」ボタン	図形タイプを錐にします。	
「錐台」ボタン	図形タイプを錐台にします。	
「球」ボタン	図形タイプを球にします。	
「底面タイプ」	底面の種類をリストから選択します。	図形タイプが球以外で有効
「球タイプ」	球の種類をリストから選択します。	図形タイプが球で有効
「中心から頂点」入力エリア	底面の中心から頂点の距離を指定して、正多角形にします。	底面タイプが「五角形、六角形、七角形、八角形」のときに表示
「幅」入力エリア	図形の横幅を入力します。	
「奥行」入力エリア	図形の奥行を入力します。	
「高さ」入力エリア	図形の高さを入力します。	
「上面サイズ」入力エリア	上面サイズの比率を0～100%で入力します。	錐台タイプの時に表示
「色」ボタン	「色の選択」ダイアログを表示します。選択した色で図形の色を設定します。	
「透明度」	透明度を0～100%の範囲で設定します。	
「光の反射」	光の反射度を0～100%で設定します。	
「名称」入力エリア	図形の名称を入力します。	
「重さ」入力エリア	図形の重さをg単位で入力します。	
「価格」入力エリア	図形の価格を入力します。	
「集計外」チェックボックス	チェックすると選択している図形は木取り図の材料集計から除外されます。	
「閉じる」ボタン	「図形追加」ダイアログを閉じます。	
「図形を追加」ボタン	図面に図形を追加します。	
「追加して閉じる」ボタン	図面に図形を追加して、「図形追加」ダイアログを閉じます。	

5-7. 「材料置換」モード

「材料置換」モードでは「材料置換」ツールバー、「材料」サイドパネル【材料置換モード】が表示され選択された材料を指定した規格に置き換えることができます。「材料置換」モードにするには材料を選択した状態で、メインメニューの「オブジェクト」で「材料の置換」を指定します。



表 5-7.1 「材料置換」ツールバー

項目	内容	備考
材料の名称で探す	入力した材料名称や規格の備考で「材料規格」一覧を検索します。	
「幅を維持」 チェックボックス	チェックを入れると置換を実行する際に、置換元の材料の幅を維持します。 (但し、置換元より広い幅の規格を選んだ場合)	※無効条件 1
「長さを維持」 チェックボックス	チェックを入れると置換を実行する際に、置換元の材料の長さを維持します。	※無効条件 2
「置換を実行」ボタン	材料オブジェクトの置換を確定します。	※無効条件 3
「オンラインパーツ」ボタン	「オンラインパーツ」ウィンドウを表示します。	5-6-1 章 参照
「ホーム」ボタン	動作モードを「ホーム」モードにします。	5-1 章 参照

※無効条件 1：金網、波板以外の DIY 資材、パーツモデルへの置換の場合は指定できません。

※無効条件 2：パーツモデルへの置換の場合は指定できません。

※無効条件 3：セットになったパーツモデルは同じセットの色違い以外には置換できません。

表 5-7.2 「材料」サイドパネル【材料置換モード】

項目	内容	備考
「規格セット」リスト	一覧に表示する規格セットを変更できます。	

表 5-7.3 「材料タイプ」

項目	内容	備考
「木材」ボタン	木材を「材料規格」一覧に表示します。	
「板材」ボタン	板材を「材料規格」一覧に表示します。	
「合板」ボタン	合板を「材料規格」一覧に表示します。	
「丸棒」ボタン	丸棒を「材料規格」一覧に表示します。	
「丸板」ボタン	丸板を「材料規格」一覧に表示します。	
「DIY 資材」ボタン	DIY 資材を「材料規格」一覧に表示します。	
「パーツモデル」ボタン	パーツモデルを「材料規格」一覧に表示します。	



6. ワークスペース

図面編集を行う 3D 空間をワークスペースと呼びます。

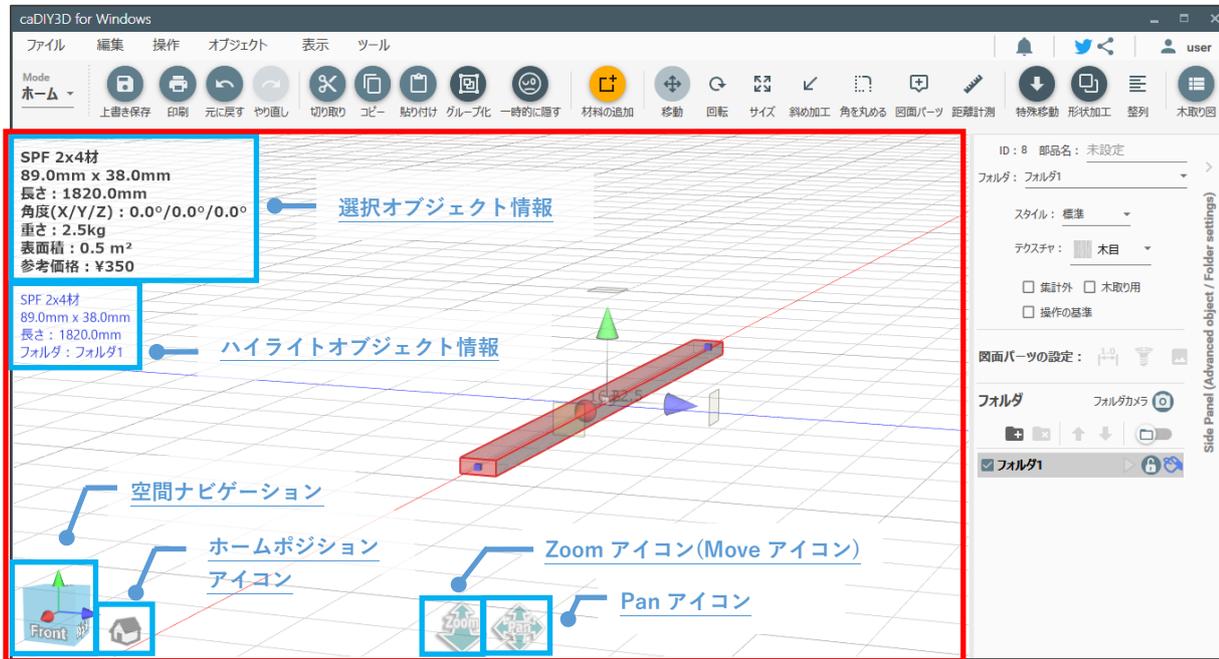


表 6.1 「ワークスペース」

項目	内容	備考
選択オブジェクト情報	選択しているオブジェクトの情報を表示します。	表 6.2、6.3 参照
ハイライトオブジェクト情報	マウスカーソルを重ねたオブジェクトの情報を表示します。	表 6.4、6.5 参照
空間ナビゲーション	ワークスペースの 3D 空間を現在どのような向きで表示しているかを示します。	
「ホームポジション」アイコン	図面の中心（初期表示位置）に視点を移動します。	
「Zoom」アイコン	アイコンを上下方向にドラッグしてワークスペースを拡大・縮小表示します。	図面モード時表示
「Move」アイコン	アイコンを上下方向にドラッグして図面を眺めるカメラを進行方向へ前後移動させます、または左右方向にドラッグしてカメラの進行方向を左右へ変化させます。	ウォークスルーモード時表示
「Pan」アイコン	アイコンを上下左右にドラッグしてワークスペースを平行移動します。	

選択しているオブジェクトの情報（単独選択の場合）

SPF 2x4材
 89.0mm x 38.0mm
 長さ：1820.0mm
 角度(X/Y/Z)：0.0°/0.0°/0.0°
 重さ：2.5kg
 表面積：0.5㎡
 参考価格：¥350
 備考：安価、加工しやすい。

表 6.2 「選択オブジェクト情報」（単独オブジェクト選択の場合）

内容
材料の名称
規格情報（丸棒/丸板は直径）
長さ（丸板は厚さ）
角度（X/Y/Z）
重さ（比重から求めた重さ）
表面積
参考価格（サイズに合わせて求める）
メーカー
ブランド
備考

選択しているオブジェクトの情報（複数選択の場合）

オブジェクト数：4
 材料数：4
 重さ：9.8kg
 表面積：1.9㎡
 参考価格：¥1,400
 幅(X)：692.0mm
 高さ(Y)：38.0mm
 奥行(Z)：1820.0mm

表 6.3 「選択オブジェクト情報」（複数オブジェクト選択の場合）

内容
オブジェクト数（材料数+材料以外のオブジェクト数）
材料数
重さ
表面積
参考価格
幅（選択オブジェクト全体の外形寸法の幅）
高さ（選択オブジェクト全体の外形寸法の高さ）
奥行き（選択オブジェクト全体の外形寸法の奥行き）

マウスカーソルを重ねたオブジェクトの情報（単独オブジェクトの場合）

SPF 2x4材
 89.0mm x 38.0mm
 長さ：1820.0mm
 フォルダ：フォルダ1

表 6.4 「ハイライトオブジェクト情報」（単独オブジェクトの場合）

内容
オブジェクトの名称
規格情報（丸棒/丸板は直径）
長さ（丸板は厚さ）
フォルダ名

マウスカーソルを重ねたオブジェクトの情報（グループオブジェクトの場合）

SPF 2x4材
 89.0mm x 38.0mm
 長さ：1820.0mm
 フォルダ：フォルダ1
 4オブジェクトのグループ

表 6.5 「ハイライトオブジェクト情報」（グループオブジェクトの場合）

内容
オブジェクトの名称（マウスカーソルが当たっているオブジェクト）
規格情報（丸棒/丸板は直径）
長さ（丸板は厚さ）
グループを格納しているフォルダ名
グループ内のオブジェクト数

6-1. マウス操作

ワークスペースでの動作モードには図面の編集を行う図面モードと、歩いて周りを見渡すような動きになるウォークスルーモードがあります。動作モードによりマウス操作が変わります。

6-1-1. 図面モードでのマウス操作

表 6-1-1.1 図面モードでのマウス操作

	マウス右ボタン ドラッグ	見ている場所を中心に 図面が回転 します。 【同じ操作】 ・「X」キー+マウス左ボタン  ドラッグ
	マウスホイール 前方回転	マウスポインターのある場所を中心に 図面が拡大 します。 【同じ操作】 ・「SPACE」キー+マウス右ボタン  ドラッグ（画面上方向） ・「Z」キー+マウス左ボタン  ドラッグ（画面上方向）
	マウスホイール 後方回転	マウスポインターのある場所を中心に 図面が縮小 します。 【同じ操作】 ・「SPACE」キー+マウス右ボタン  ドラッグ（画面下方向） ・「Z」キー+マウス左ボタン  ドラッグ（画面下方向）
	マウス中ボタン ドラッグ	図面が平行移動 します。 【同じ操作】 ・「SPACE」キー+マウス左ボタン  ドラッグ
	マウス左ボタン ドラッグ	各マニピュレーターの先端（コーンやハンドル）をドラッグした場合、 操作モードごと に動作が異なります。オブジェクトが何もない空間をドラッグした場合は、範囲選択を開始します。
	マウス左ボタン ダブルクリック	オブジェクトをダブルクリックした場合、オブジェクトが画面の中心になるようにカメラを移動します。オブジェクトが何もない空間をダブルクリックした場合にはホームポジションに移動します。
	マウスポインター の移動	ボタンを押さず にマウスポインターを移動し、ポインタの下にオブジェクトが位置した場合、オブジェクトはハイライト状態（選択候補）になります。

6-1-2.ウォークスルーモードでのマウス操作

表 6-1-2.1 ウォークスルーモードでのマウス操作

	マウス右ボタン ドラッグ	カメラを中心に視点を上下左右に移動 します。球の中心から外に向かって眺めるイメージです。
		【同じ操作】 ・「X」キー+マウス左ボタン  ドラッグ
	マウスホイール 前方回転	カメラを前方に移動 します。カメラと注視点の距離関係は変わりません。
	マウスホイール 後方回転	カメラを後方に移動 します。カメラと注視点の距離関係は変わりません。
	マウス中ボタン ドラッグ	平行移動 します。カメラの向きを変えずに移動します。
		【同じ操作】 ・「SPACE」キー+マウス左ボタン  ドラッグ

7. サイドパネル

サイドパネルでは、オブジェクトの各種設定と、フォルダ管理を行います。

サイドパネルは以下の3つのエリアから構成されます。



表 7.1 サイドパネルのエリア

項目	内容	備考
「プロパティ」エリア	選択しているオブジェクトのプロパティを変更できます。	表 7.2 参照
「図面パーツの設定」エリア	選択している図面パーツ（寸法線やピスなど）の表示を変更できます。ボタンをクリックすると、図面パーツごとのパネルを開きます。	表 7.3 参照 ※制限対象
「フォルダ」エリア	フォルダの管理をします。フォルダには現在のカメラ情報を記憶することもできます。記憶したカメラ情報は再生や印刷ができます。	表 7.4 参照

※制限対象：試用期間中、およびライセンス登録済みの場合に利用可能です。

表 7.2 「プロパティ」 エリア

項目	内容	備考
「ID」	材料オブジェクトに自動で割り振られている番号です。	
「部品名」入力エリア	材料オブジェクトの部品としての名称を設定できます。	初期値：空白
「フォルダ」リスト	オブジェクトが属しているフォルダを変更できます。	
「スタイル」リスト	オブジェクトごとの描画スタイルを「標準」または「エッジのみ」で設定します。 ※「標準」を指定すると「メインメニュー>表示>オブジェクトの表示」の設定により表示します。	
「テクスチャ」リスト	材料オブジェクトのテクスチャをリストから変更できます。	
「集計外」チェックボックス	チェックすると選択している材料オブジェクトは木取り図の材料集計から除外されます。	
「木取り用」チェックボックス	チェックすると選択している材料オブジェクトは木取り枠としてエッジだけの表示になり、重さや価格がなくなります。木取り図の集計からも除外されます。	
「操作の基準」チェックボックス	チェックすると選択している材料オブジェクトは移動や回転の基準となります。複数のオブジェクトを選択した中に基準の材料オブジェクトがある場合、その材料オブジェクトの中心にマニピュレーターが表示されます。	

表 7.3 「図面パーツの設定」 エリア

項目	内容	備考
「  」 ボタン (寸法線/分度器/コメント)	「寸法線/分度器/コメントの設定」 パネルを表示します。 ワークスペースで寸法線などを選択すると活性化します。	7-1 章 参照
「  」 ボタン (ビス)	「ビスの設定」 パネルを表示します。 ワークスペースでビスを選択すると活性化します。	7-2 章 参照
「  」 ボタン (ピクチャ)	「ピクチャの設定」 パネルを表示します。 ワークスペースでピクチャを選択すると活性化します。	7-3 章 参照

表 7.4 「フォルダ」 エリア

項目	内容	備考
「フォルダカメラ」 ボタン	選択しているフォルダにカメラ情報を記憶します。既にカメラ情報を記憶している場合は削除します。	
	 (カメラ情報未保存時) : 選択しているフォルダにカメラ情報を保存します。	
	 (カメラ情報保存時) : 選択しているフォルダのカメラ情報を削除します。	
「  」 ボタン (フォルダ追加)	「フォルダ」 リストに新しくフォルダを追加します。	
「  」 ボタン (フォルダ追加)	選択しているフォルダを削除します。	
「  」 ボタン (上)	選択しているフォルダを上に移動します。	
「  」 ボタン (下)	選択しているフォルダを下に移動します。	
「  /  」 スイッチ (フォルダカラー表示)	フォルダカラーモードの ON/OFF を切り替えます。ON のときは図面上の材料の色をフォルダに設定している色で表示します。	
	 (フォルダ色解除時) : 材料をフォルダ色で表示しません。	
	 (フォルダ色設定時) : 材料をフォルダ色で表示します。	
「フォルダ」 リスト	図面に登録されているフォルダの一覧表示です。	表 7.5 参照

「フォルダ」 リスト

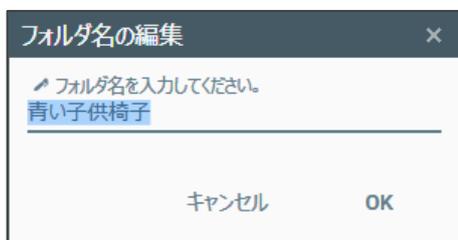
「フォルダ」エリアの「フォルダ」リストには図面内のフォルダをリスト表示します。選択したフォルダの設定を行うことができます。



表 7.5 「フォルダ」 リスト

項目	内容
「オブジェクト表示」 チェックボックス	チェックを外すとフォルダ内のすべてのオブジェクトが非表示になります。
「フォルダ名」	フォルダの名称です。ダブルクリックすると「フォルダ名の編集」ダイアログが開きます。
「▶」ボタン (カメラ再生)	フォルダに保存されている図面を眺める視点を復元します。
「🔒 / 🔓」ボタン (フォルダロック)	フォルダのロック状態の ON/OFF を切り替えます。ON のときはそのフォルダに含まれるオブジェクトの操作を無効にします。 🔒 (ロック状態) : 選択などの操作ができません。 🔓 (ロック解除状態) : 選択などの操作ができます。
「👉」ボタン (フォルダカラー)	「色の選択」ダイアログを表示します。選択した色でフォルダカラーを設定します。

「フォルダ名の編集」ダイアログ



「フォルダ名の編集」ダイアログではフォルダ名を変更できます。

表 7.6 「フォルダ名の編集」ダイアログ

項目	内容	備考
「フォルダ名」入力エリア	現在のフォルダ名を編集します。	
「キャンセル」ボタン	フォルダ名を変更せずにダイアログを閉じます。	
「OK」ボタン	フォルダ名を変更してダイアログを閉じます。「フォルダ」リストにフォルダ名を反映します。	

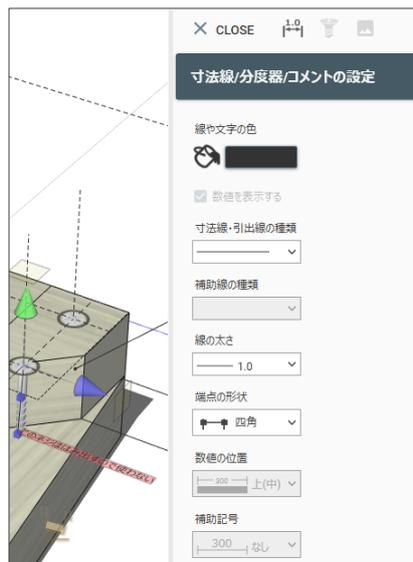
「フォルダ」リストの右クリックメニュー



表 7.7 「フォルダ」リストの右クリックメニュー

項目	内容	備考
「このフォルダにカメラ位置を記録」コマンド	選択しているフォルダにカメラ情報を保存します。	カメラ情報未保存時に有効
「このフォルダのカメラ位置を削除」コマンド	選択しているフォルダのカメラ情報を削除します。	カメラ情報保存時に有効
「全てのフォルダを表示する」コマンド	すべてのフォルダ内のオブジェクトを表示にします。	
「全てのフォルダを非表示にする」コマンド	すべてのフォルダ内のオブジェクトを非表示にします。	
「フォルダカラーで表示する」コマンド	材料をフォルダに設定している色で表示します。	
「上にフォルダを追加」コマンド	選択しているフォルダの上にフォルダを追加します。	
「下にフォルダを追加」コマンド	選択しているフォルダの下にフォルダを追加します。	
「フォルダ名を変更」コマンド	「フォルダ名の編集」ダイアログが開きます。	
「このフォルダを削除」コマンド	選択しているフォルダを削除します。	
「このフォルダをコピー」コマンド	選択しているフォルダをコピーしてフォルダリストの最後に追加します。	オブジェクトが保存されているフォルダで有効

7-1. 「寸法線/分度器/コメントの設定」パネル



「寸法線/分度器/コメントの設定」パネルは寸法線/分度器/コメントオブジェクトの情報を設定するパネルです。このパネルは「図面パーツの設定」エリアで「」ボタン（寸法線/分度器/コメント）をクリックすると開きます。図面パーツ追加モードで「図面パーツの追加」ダイアログの「寸法線」、「分度器」、「コメント」ボタンのどれかをクリックした場合も開きます。

表 7-1.1 「寸法線/分度器/コメントの設定」パネル

項目	内容	備考
「CLOSE」ボタン	表示中のパネルを閉じます。	
「  」ボタン (寸法線/分度器/コメント)	「寸法線/分度器/コメントの設定」パネルを表示します。	選択済み
「  」ボタン (ビス)	「ビスの設定」パネルを表示します。	7.2 章 参照
「  」ボタン (ピクチャ)	「ピクチャの設定」パネルを表示します。	7.3 章 参照
「線や文字の色」ボタン	「色の選択」ダイアログを表示します。選択した色で線の部分や、数値、コメントの文字などの色を設定します。	表 5-6-7.4 参照
「数値を表示する」 チェックボックス	寸法線・分度器オブジェクトの数値表示 ON/OFF を設定します。	寸法線と分度器 で有効
「寸法線・引出線の種類」リスト	寸法線・引出線の種類をリストから設定します。	
「補助線の種類」リスト	補助線の種類をリストから設定します。	寸法線と分度器 で有効
「線の太さ」リスト	(0.5/1.0/1.5/2.0/3.0) から選択します。	
「端点の形状」リスト	(なし/四角/矢印(内)/矢印(外)) から選択します。	
「数値の位置」リスト	(上/下/上(中)/下(中)) から選択します。	寸法線で有効
「補助記号」リスト	(なし/□/Φ) から選択します。	寸法線で有効

7-2. 「ビスの設定」 パネル



「ビスの設定」パネルはビスオブジェクトの情報を設定するパネルです。このパネルは「図面パーツの設定」エリアで「」ボタン（ビス）をクリックすると開きます。図面パーツ追加モードで「図面パーツの追加」ダイアログの「ビス」ボタンをクリックした場合も開きます。

表 7-2.1 「ビスの設定」 パネル

項目	内容	備考
「CLOSE」ボタン	表示中のパネルを閉じます。	
「  」ボタン (寸法線/分度器/コメント)	「寸法線/分度器/コメント」パネルを表示します。	7.1 章 参照
「  」ボタン (ビス)	「ビスの設定」パネルを表示します。	選択済み
「  」ボタン (ピクチャ)	「ピクチャの設定」パネルを表示します。	7.3 章 参照
「寸法線/補助線を表示する」 チェックボックス	寸法線/補助線の表示の有無を設定します。	
「寸法線/補助線/数値の色」 ボタン	「色の選択」ダイアログを表示します。 線の部分や、数値、コメントの文字などの色を設定します。	表 5-6-7.4 参照
「ビスの色」ボタン	「色の選択」ダイアログを表示します。 ビスの色を設定します。	表 5-6-7.4 参照
「寸法線の種類」リスト	寸法線の種類をリストから設定します。	
「補助線の種類」リスト	補助線の種類をリストから設定します。	
「線の太さ」リスト	(0.5/1.0/1.5/2.0/3.0) から選択します。	
「ビスのレイアウト」リスト	(1本/2本/3本直線上/3本互い違い/4本/5本) から選択します。	
「ビスの径」リスト	ビスの太さを (15mm~45mm) から選択します。	
「ビスの長さ」リスト	(13mm~90mm) から選択します。	
「ビスの深さ」	ワークスペースのビスの表示位置を変更してビスの深さをシミュレーション することができます。	
「ビスの種類」リスト	( ビス/  釘) から選択します。	

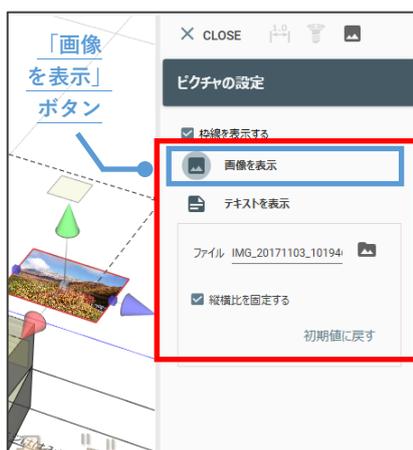
7-3. 「ピクチャの設定」パネル



「ピクチャの設定」パネルはピクチャオブジェクトの情報を設定するパネルです。このパネルは「図面パーツの設定」エリアの「」ボタン（ピクチャ）をクリックすると開きます。図面パーツ追加モードで「図面パーツの追加」ダイアログの「ピクチャ」ボタンをクリックした場合も開きます。

表 7-3.1 「ピクチャの設定」パネル共通部

項目	内容	備考
「CLOSE」ボタン	表示中のパネルを閉じます。	
「  」ボタン (寸法線/分度器/コメント)	「寸法線/分度器/コメント」パネルを表示します。	7.1 章 参照
「  」ボタン (ビス)	「ビスの設定」パネルを表示します。	7.2 章 参照
「  」ボタン (ピクチャ)	「ピクチャの設定」パネルを表示します。	選択済み
「枠線を表示する」 チェックボックス	枠線の表示の有無を設定します。	
「画像を表示」ボタン	ピクチャの表示を画像に切り替え、画像の設定ができるようになります。	表 7-3.2 参照
「テキストを表示」ボタン	ピクチャの表示をテキストに切り替え、テキストの設定ができるようになります。	表 7-3.3 参照



ピクチャの種類で「画像を表示」ボタンをクリックするとピクチャに表示する画像を選択するためのモードに切り替わります。

表 7-3.2 「ピクチャの種類」画像を表示時

項目	内容	備考
「ファイル」	ピクチャに表示中の画像のファイル名を表示します。	入力不可。
「  」ボタン (ファイル選択)	ピクチャに表示する画像を選択する「開く」ダイアログを表示します。	
「縦横比を固定する」 チェックボックス	チェックするとピクチャをサイズ変更したとき縦横比が維持されます。	
「初期値に戻す」ボタン	ピクチャを初期イメージに戻します。	



ピクチャの種類で「テキストを表示」ボタンをクリックするとピクチャにテキストを表示するためのモードに切り替わります。

表 7-3.3 「ピクチャの種類」テキストを表示時

項目	内容	備考
「サイズ」入力エリア	数値を入力して文字のサイズを設定します。数値が大きいほど文字も大きくなりますが、ピクチャの枠から文字がはみ出すことはありません。	
「色」ボタン	「色の選択」ダイアログを表示します。選択した色でテキストの色を設定します。	表 5-6-7.4 参照
「太字」チェックボックス	チェックすると太字で表示します。	
「斜体」チェックボックス	チェックすると斜体で表示します。	
「フォント」リスト	文字のフォントをリストから設定します。	
「背景を塗りつぶす」チェックボックス	チェックするとピクチャの背景を塗りつぶします。	

8. ステータスバー

ワークスペースの下にある**ステータスバー**には操作ヒントが表示されます。

また、現在のカメラ視点、座標系、遠近感、影、床、アウトライン強調、カメラライト、オートスナップ、フキダシ、スタンプメニュー、効果音の設定状態を確認して変更することができます。

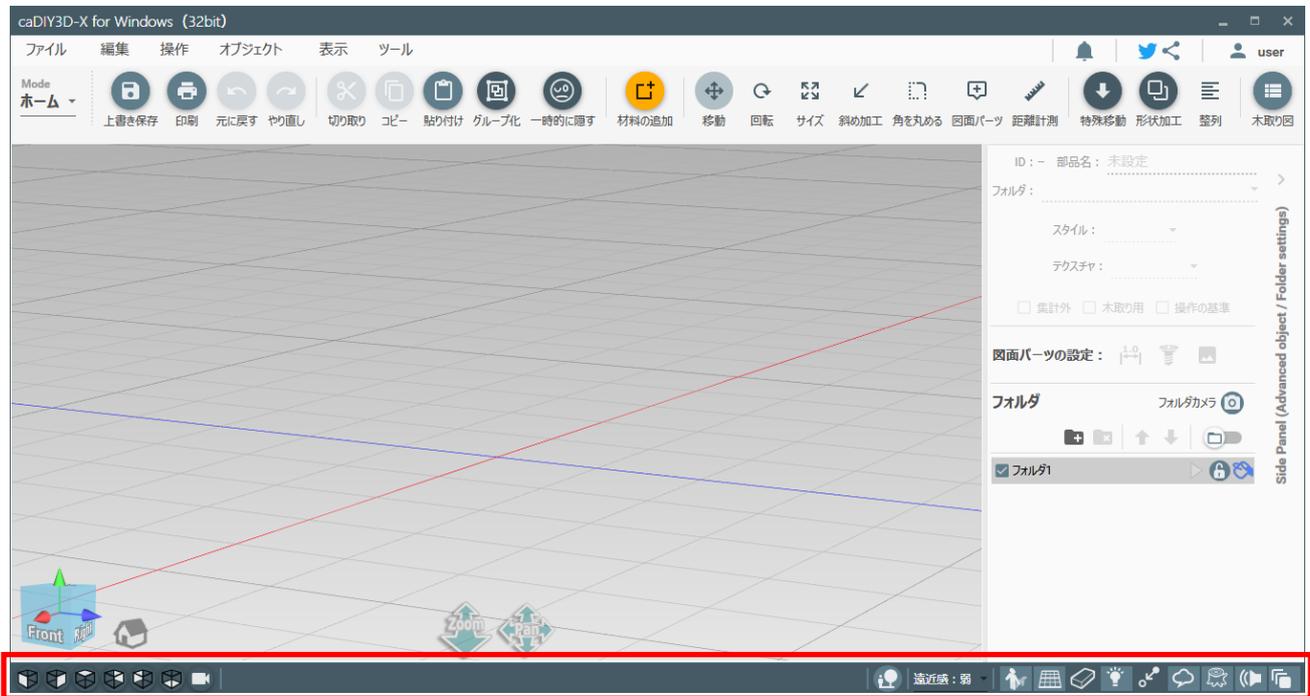


表 8.1 ステータスバー

[備考欄の () 内はコマンドに対応したショートカット]

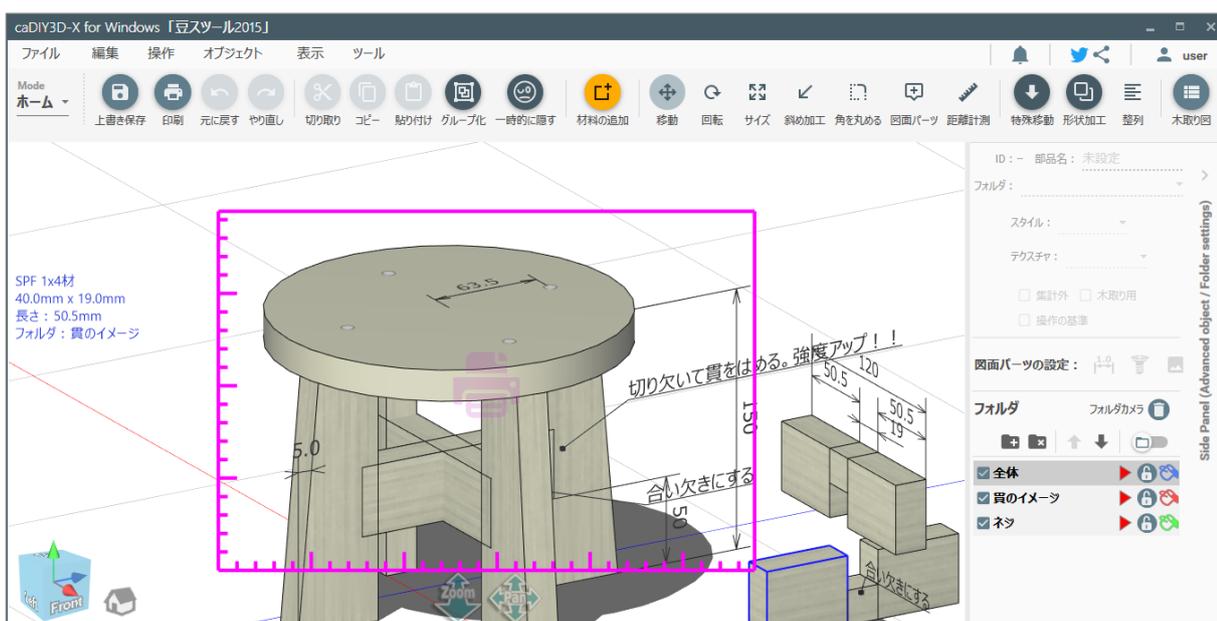
項目	内容	備考
「カメラ視点」ボタン	指定した方向から眺めるようにカメラを設定します。表示モードを正射影（奥行き感のない）モードに変更します。	
	「  」（前方向）：カメラ視点を前方向に設定します。	(F4)
	「  」（右方向）：カメラ視点を右方向に設定します。	(F6)
	「  」（上方向）：カメラ視点を上方向に設定します。	(F2)
	「  」（後ろ方向）：カメラ視点を後ろ方向に設定します。	(F7)
	「  」（左方向）：カメラ視点を左方向に設定します。	(F3)
「  」（下方向）：カメラ視点を下方向に設定します。		(F5)
「  」ボタン (注視点を変える)	表示したい位置（注視点）にカメラの設定を変更します。	(F9)
「座標系」ボタン	「  」（ワールド座標系）：マニピュレーターをワールド座標系（絶対座標系）に基づいて表示します。	
	「  」（ローカル座標系）：マニピュレーターをローカル座標系（相対座標系）に基づいて表示します。	
「遠近感」リスト	図面の遠近感を選択します。	
	実寸モード：実寸で印刷するための枠を表示します。	8-1 章 参照
	弱：初期の遠近感の設定です。奥行き感が弱いため、位置合わせ等の操作がしやすい設定になっています。	

	中：遠近感を少し強調した設定です。	
	強：遠近感を強調した設定です。現実の見た目に近いイメージを確認することができます。	
「  」ボタン (影の表示)	材料オブジェクトの影を表示するか設定します。	※設定状態を表示
「  」ボタン (床の表示)	図面の床の位置にグリッド線（格子線）を表示するか設定します。	※設定状態を表示
「  」ボタン (アウトラインの強調)	材料オブジェクトのアウトライン（輪郭）を太くして強調表示するか設定します。	※設定状態を表示
「  」ボタン (カメラライト)	カメラが表示する箇所は常に光が当たった表示にするか設定します。	※設定状態を表示
「  」ボタン (オートスナップ)	オブジェクトの端点や中点にオブジェクトが近づいたとき、自動で吸い付く機能を使用するか設定します。	※設定状態を表示
「  」ボタン (フキダシの表示)	マニピュレーターを操作した際にフキダシで変化量を表示するか設定します。 ※コピーなどのアクション実行のフキダシは設定に関係なく表示します。	※設定状態を表示
「  」ボタン (スタンプメニュー表示)	オブジェクト上でマウス左ボタンを長押ししたときに、マウスカーソルがある場所にスタンプメニューを表示するか設定します。	※設定状態を表示
「  」ボタン (効果音)	材料追加時などの効果音 ON/OFF を設定します。	※設定状態を表示
「  」ボタン (アニメーション付加)	回転等の操作の際にアニメーションを付けるか設定します。	※設定状態を表示

※設定状態を表示： 設定 ON の場合は背景色が薄く、OFF の場合は背景色が濃くなります。

8-1. 実寸モード

図面の遠近感の実寸モードはワークスペースに実寸で印刷するための枠を表示します。図面を印刷時は表示された範囲でなく実寸枠内を印刷します。



9. ツイート機能

caDIY3D では表示されている図面を画像として Twitter に投稿できます。caDIY3D 画面で  をクリックしてください。この機能を利用する場合は、caDIY3D とお使いの Twitter アカウントの連携が必要です。



表 9.1 「現在の図面でツイートする」 ダイアログ（アカウント連携後）

項目	内容	備考
「  」（Twitter アカウント名）	連携中の Twitter アカウント名が表示されます。このアカウントでツイートが行われます。	
「:」（設定）	連携中の Twitter アカウントの連携を解除します。	
画像プレビュー	ツイート用の画像が表示されます。	
文章入力エリア	ツイート用の文章を入力できます。	
「○」（ツイート文字数）	Twitter にツイートできる文字数の制限を表します。文字数が上限に近づくほど円形になります。	
「キャンセル」ボタン	ツイートせずに、ダイアログを閉じます。	
「ツイート」ボタン	画像と文章をツイートします。	
「ツイート URL 表示エリア」	ツイートに成功すると、ダイアログ下部でツイートの URL が表示されます。失敗した場合、エラーメッセージが表示されます。	

9-1. Twitter アカウントの連携

はじめて caDIY3D からツイートする場合は、Twitter アカウントの連携をしてください。

※Twitter アカウントが必要になります。

caDIY3D 画面で  アイコンをクリックして、「現在の図面でツイートする」ダイアログから caDIY3D と Twitter アカウントを連携してください。



表 9-1.1 「現在の図面でツイートする」ダイアログ（アカウント連携前）

項目	内容	備考
「1: 連携アプリを認証」ボタン	caDIY3D とお使いの Twitter アカウントを連携するために、ブラウザでアプリケーションの認証ページを開きます。認証後、PIN コードが発行されます。	
PIN コード入力エリア	ブラウザで発行された PIN コードを入力します。	
「2: PIN コードを認証」ボタン	「入力した PIN コードが正しいか確認します。正しいければ、ツイート機能が利用可能になります。	

caDIY3D-X リファレンスマニュアル

Ver3.17 対応

2018年7月31日 初版

2022年4月27日 更新

製作/発行元：株式会社日本マイクロシステム

〒683-0851 鳥取県米子市夜見町 2947-3

株式会社日本マイクロシステム オフィシャルサイト：<https://www.jpms.co.jp/>

caDIY3D オフィシャルサイト：<https://cadiy3d.com/>

本製品マニュアルの複写、転載を禁止します。

本製品の内容は、予告なしに変更することがあります。